へ13
3756
7

緒方光琳筆

志ぐらの以鏡中九編

下の巻

春水作

國貞畫

[illegible]

[illegible]

時代のみ

拾九篇上冊

為永春水作

一壽斎國貞畫

若林堂梓

深有

東山作

昌物

華

北雪美談時代加賀

十九編下

為永春水作

一壽齋國貞畫

北雪美談
時代加賀見
二十編下

北雪美談 時代加賀見

廿一編上

廿一編下

梅堂楼國貞画

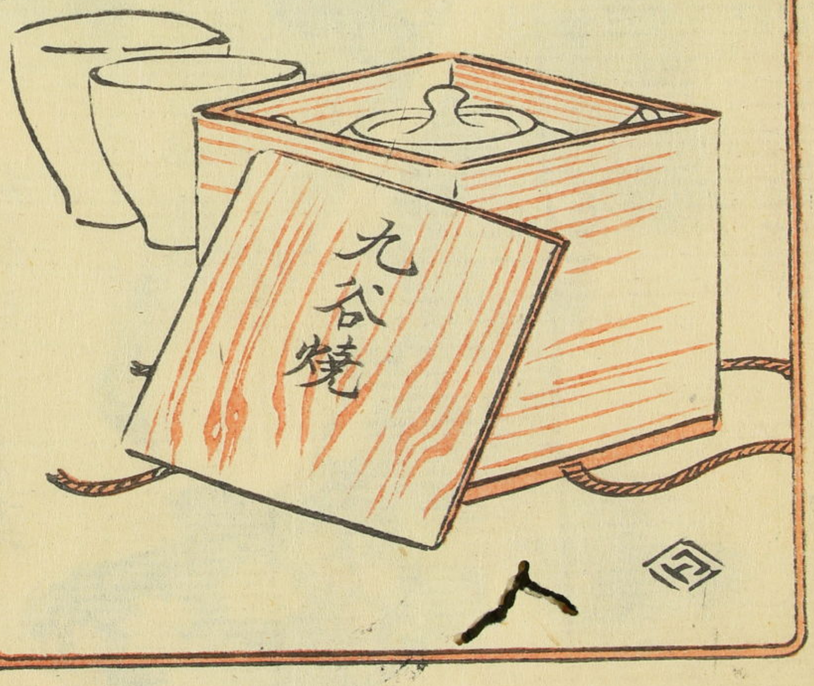
庚申新刻

若林堂梓

門 へ13
號 3756
巻 7

水雲子み談時代
鏡廿一篇下集
為永春水作
郡川國貞畫

右 [illegible]

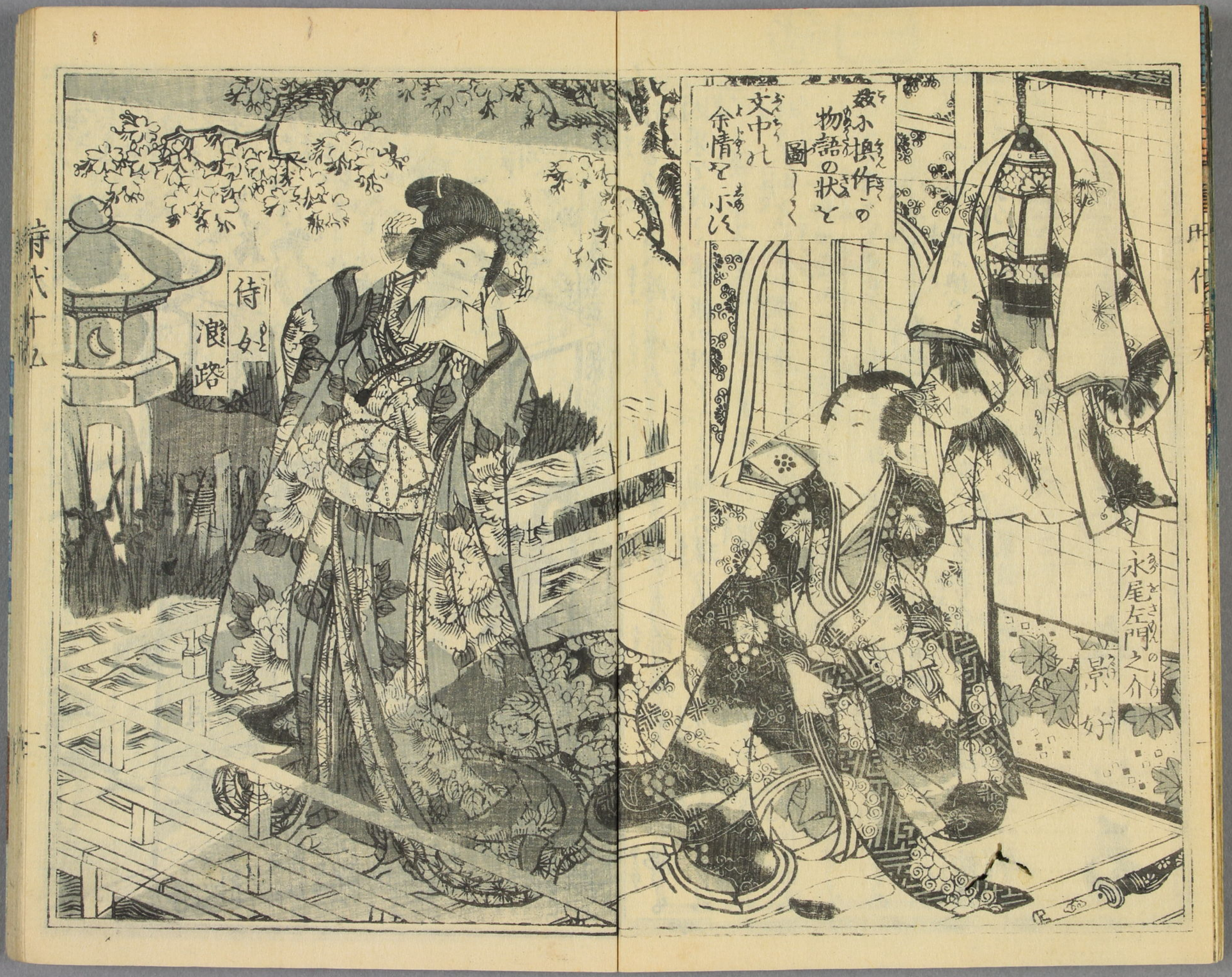


一

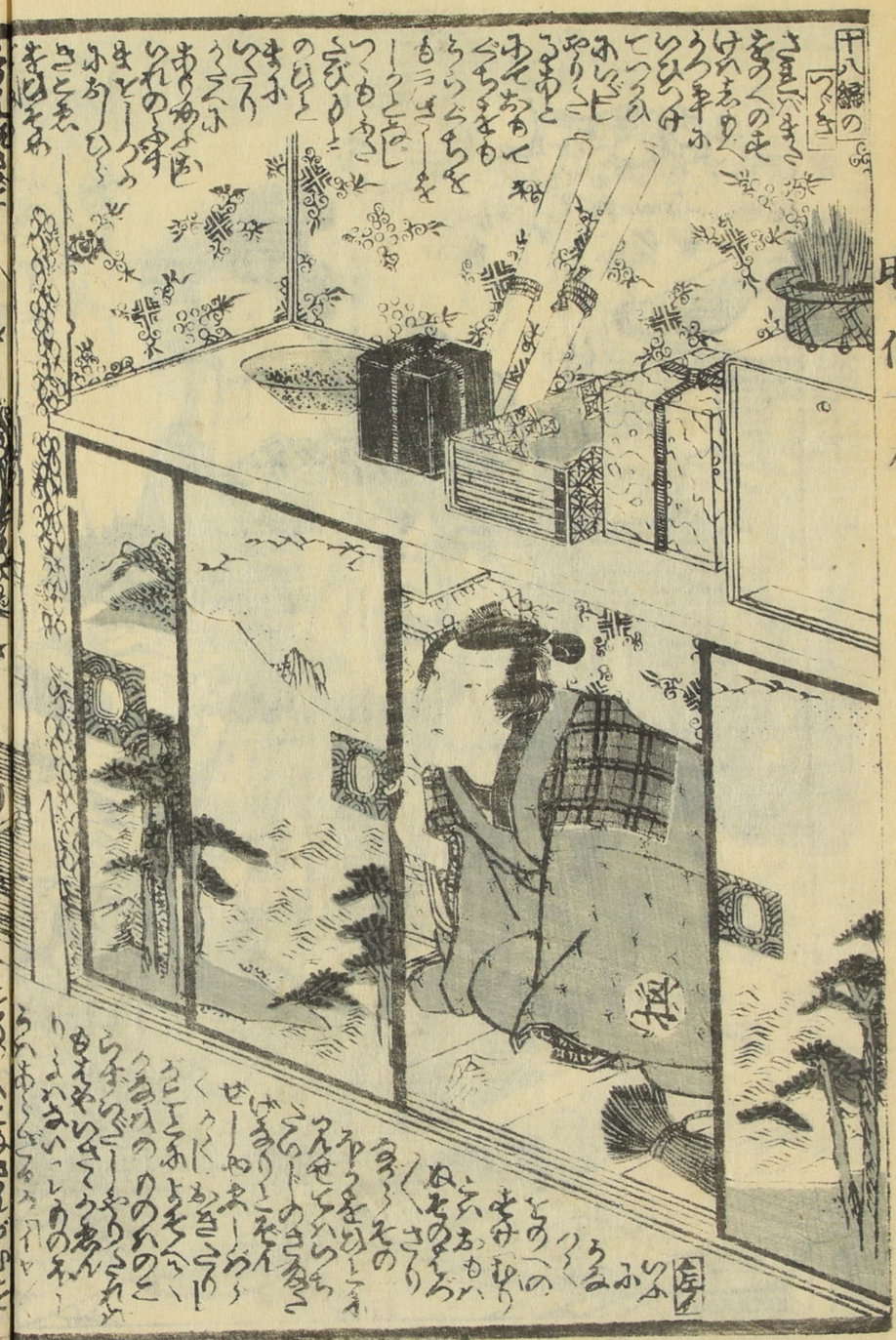
積善の家にハ餘の慶あり。積不善の家にハ餘の殃ありて尓バ佛も
因果を說こゝ。應報の理を示せ。輪廻ハ環のめぐるが如く必已に出ゐるり結
已に復ゐる事のことゝ。善報も惡報も亦よく遲速なれ事を得ず。
速きハ則その身に報ひ遲けれバ子孫に及ぶ。今這編に著せ所の浪花の市客
一大がゞれ俠氣にしてよく換作を惠む偶女兒浪路ありて貴人の胤を姙せしも。
緑母の毒手を免れんとして終に逆旅の露と消ゆ。別て換作夫婦が義氣ゐるその
落胤を守傳きしも。妻晒野ハ合法が十字にて。奸賊由緑之丞に討れ換作ハ
又ゆくりなく兄に換はれて節に死せ。斯のごとの善人は斯のごとの薄命なる。勸懲
无差別なるに似たれど。所謂過世の宿業欲這処に惡業滅してハ。乎ゝ
善果の明るべき。开ハ後輯に說をゆるべし。

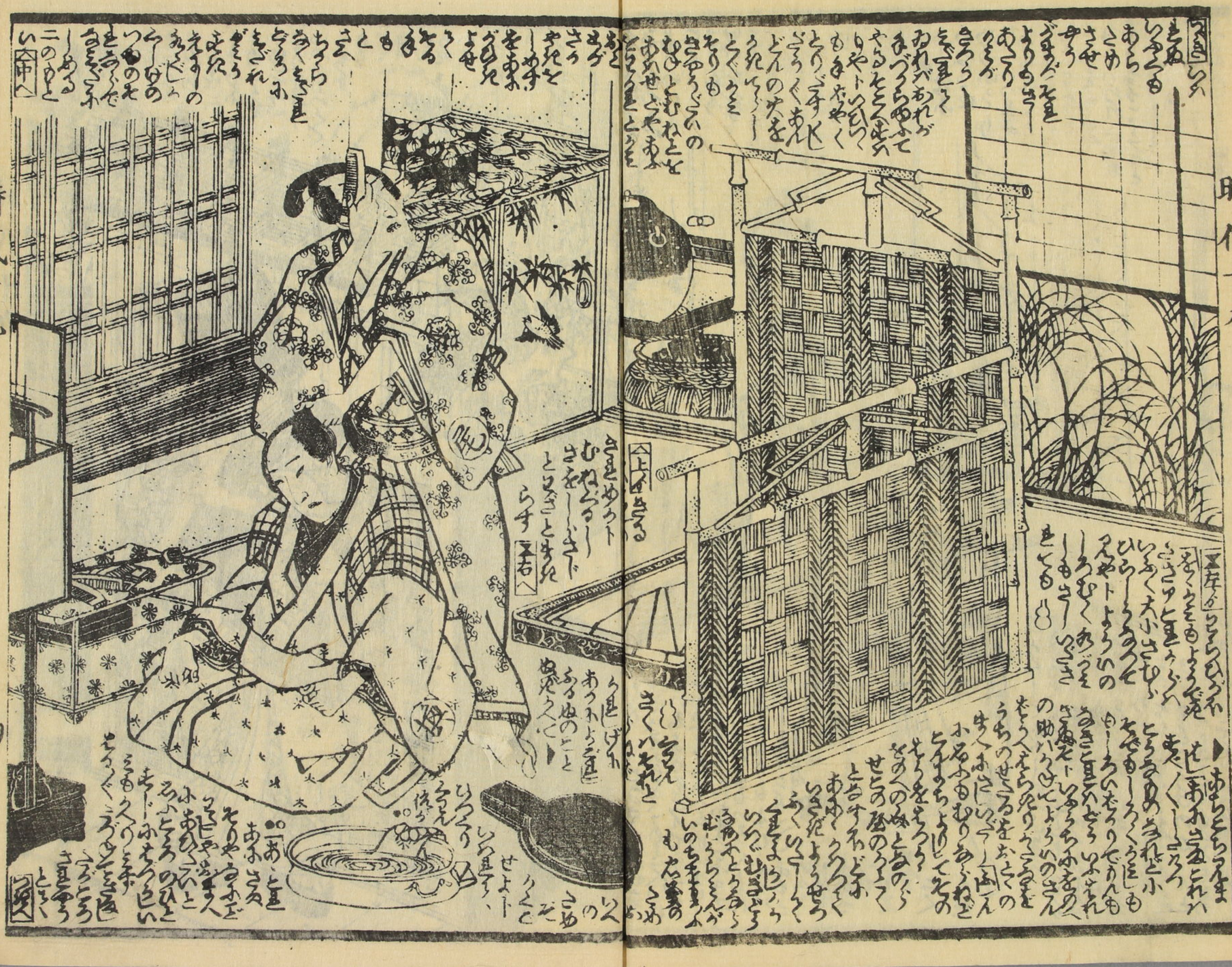
安政庚申新春良辰

為永春水記

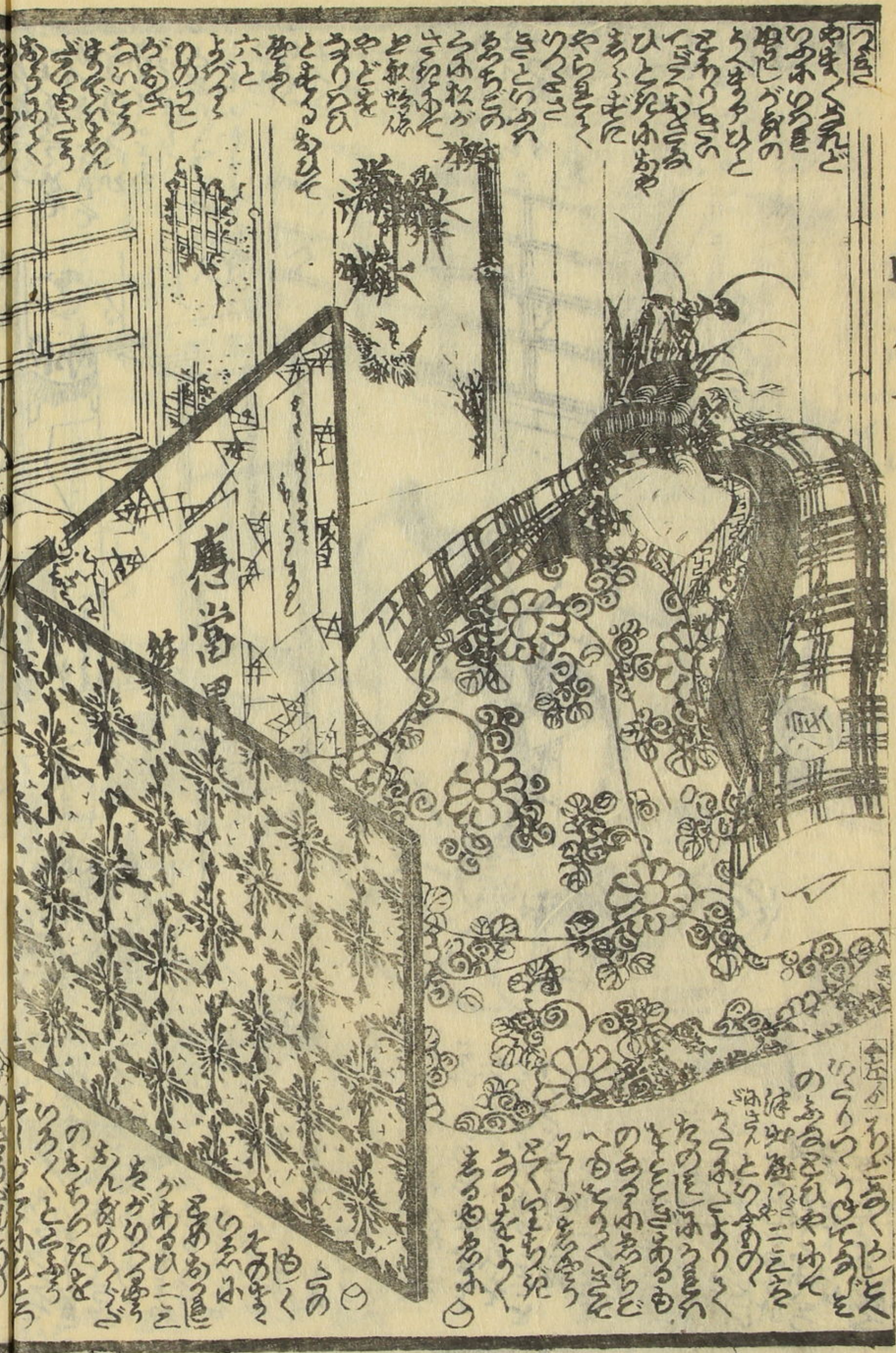


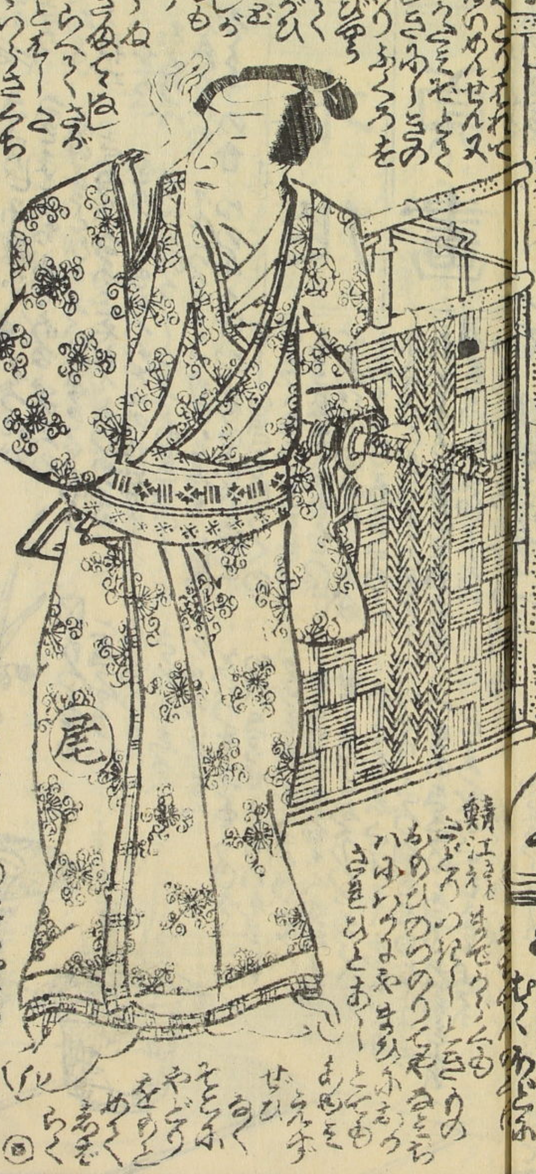
侍女
浪路
永尾左門之介
景好

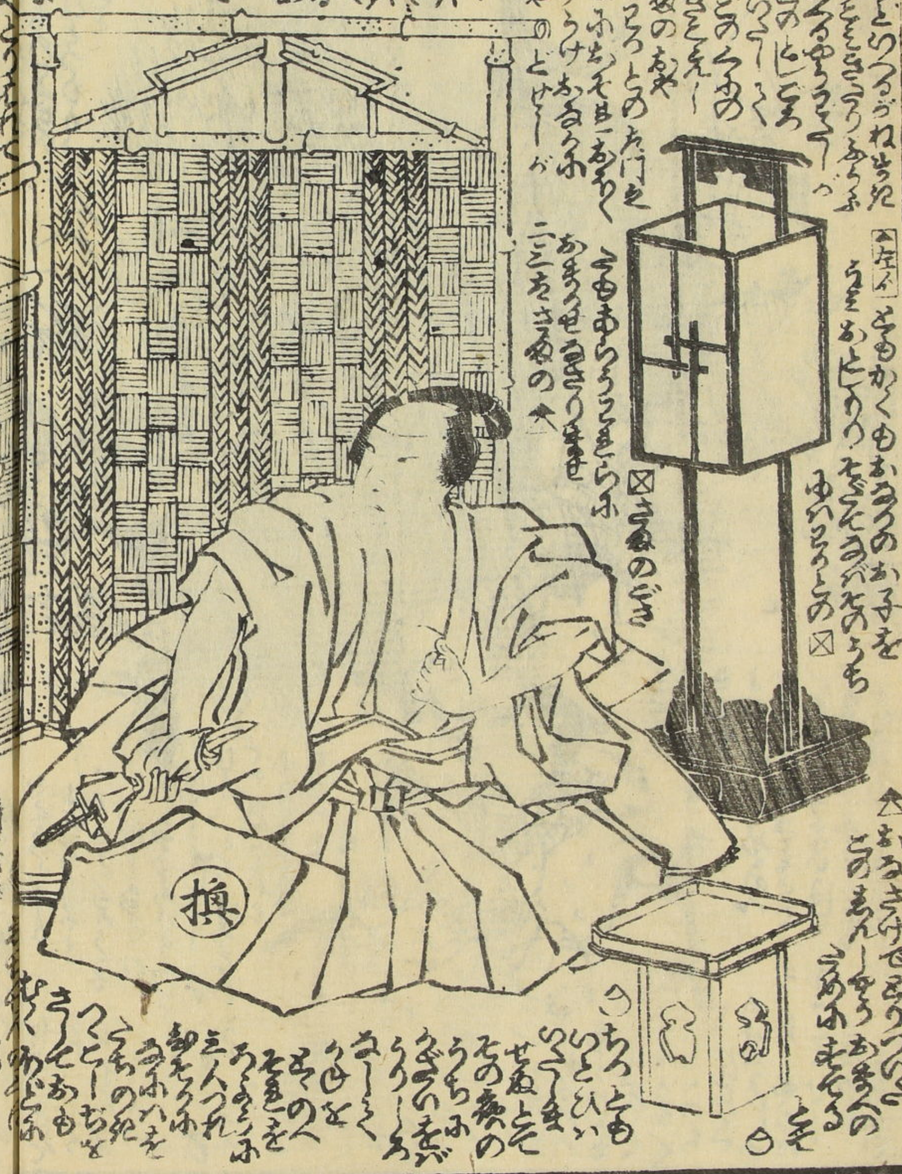




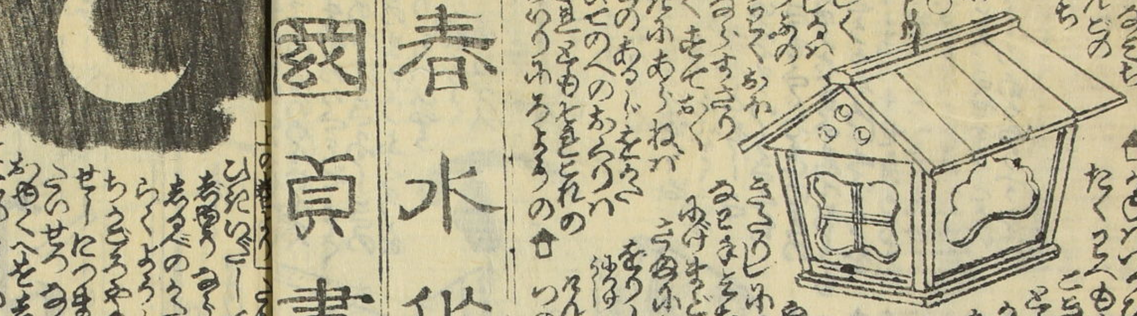
是より下へ四丁の画は
換作が物語を圖す

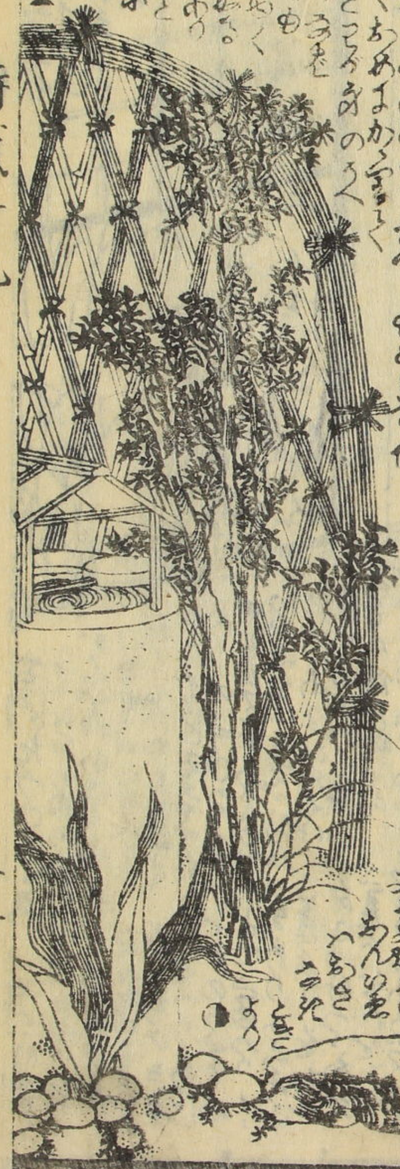


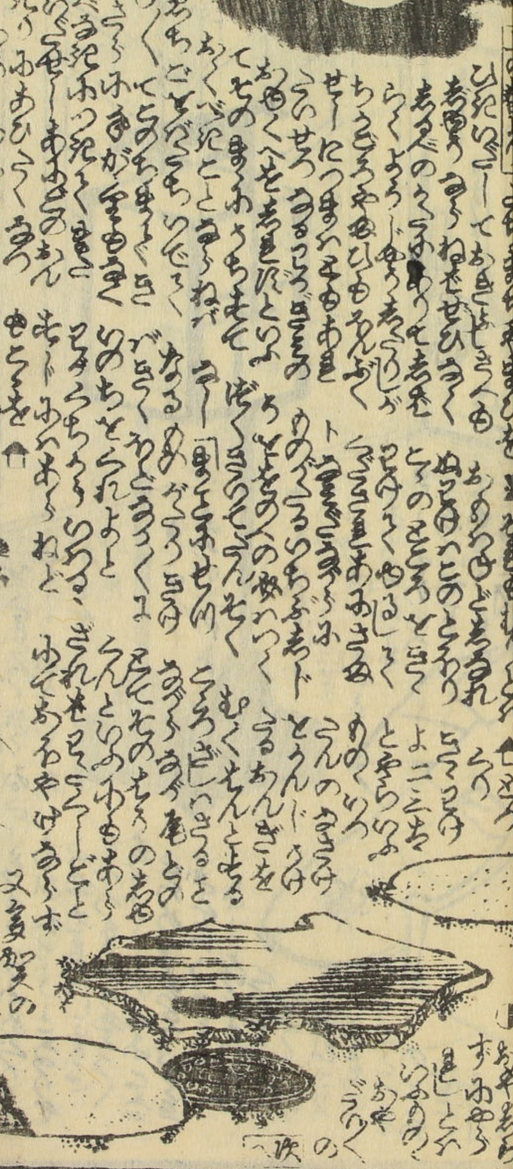

尾

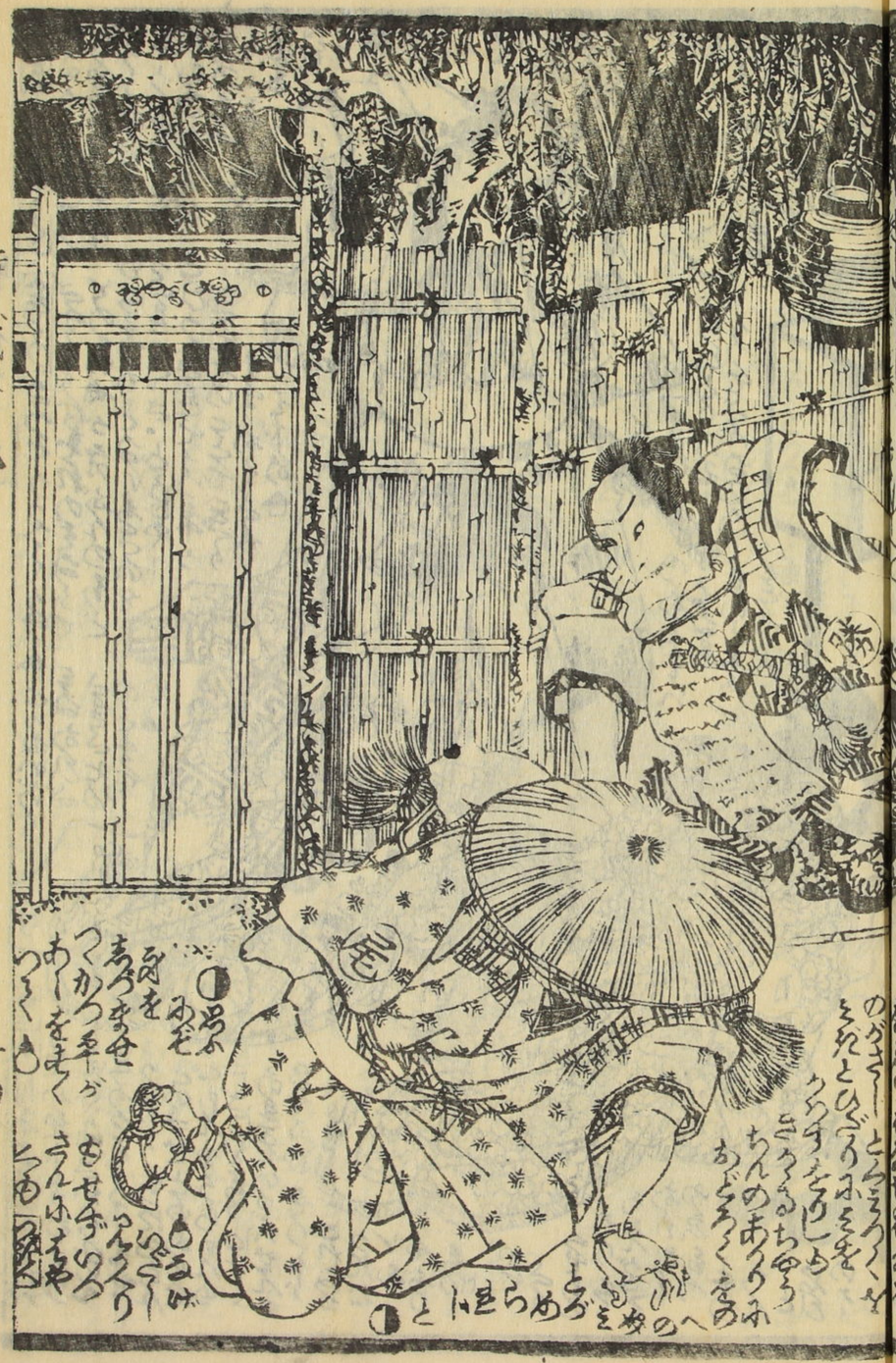

損

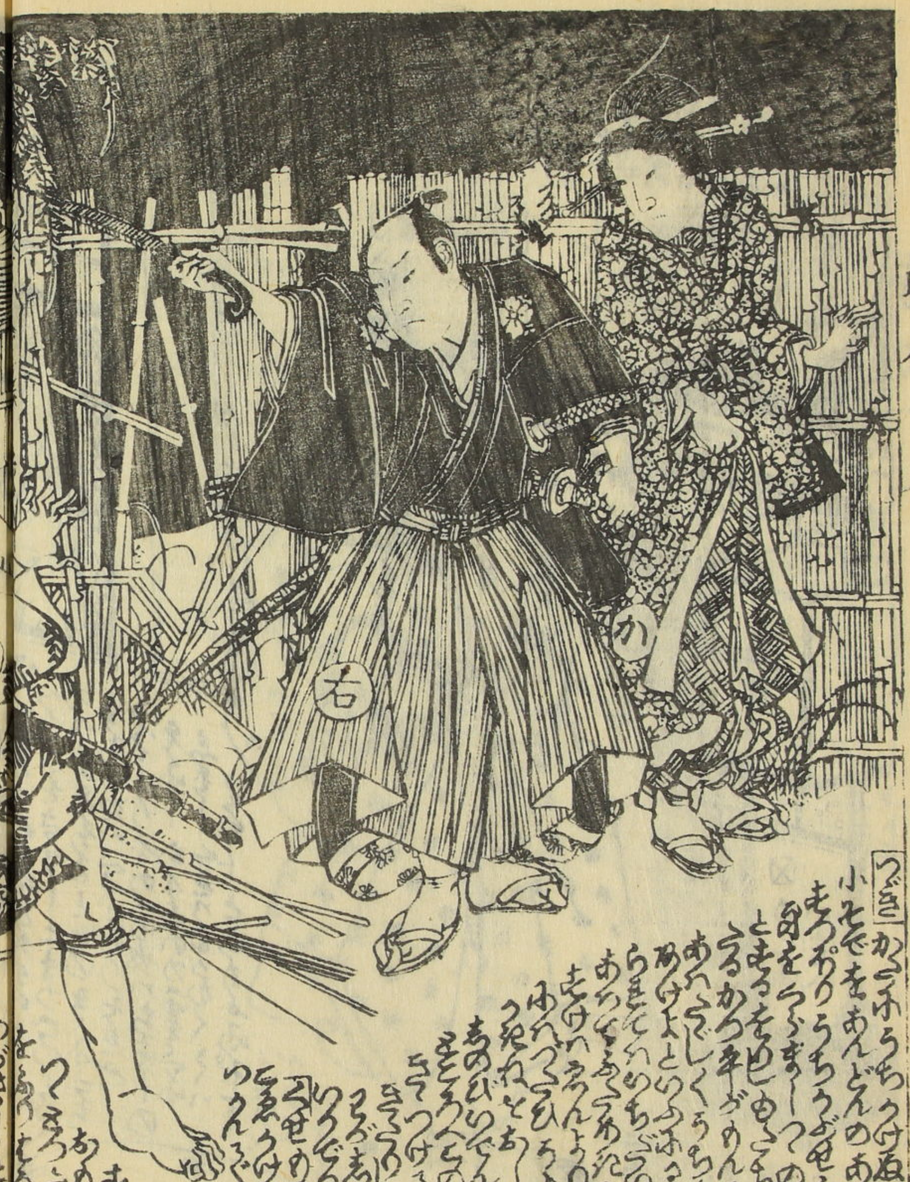
春水作 図画書



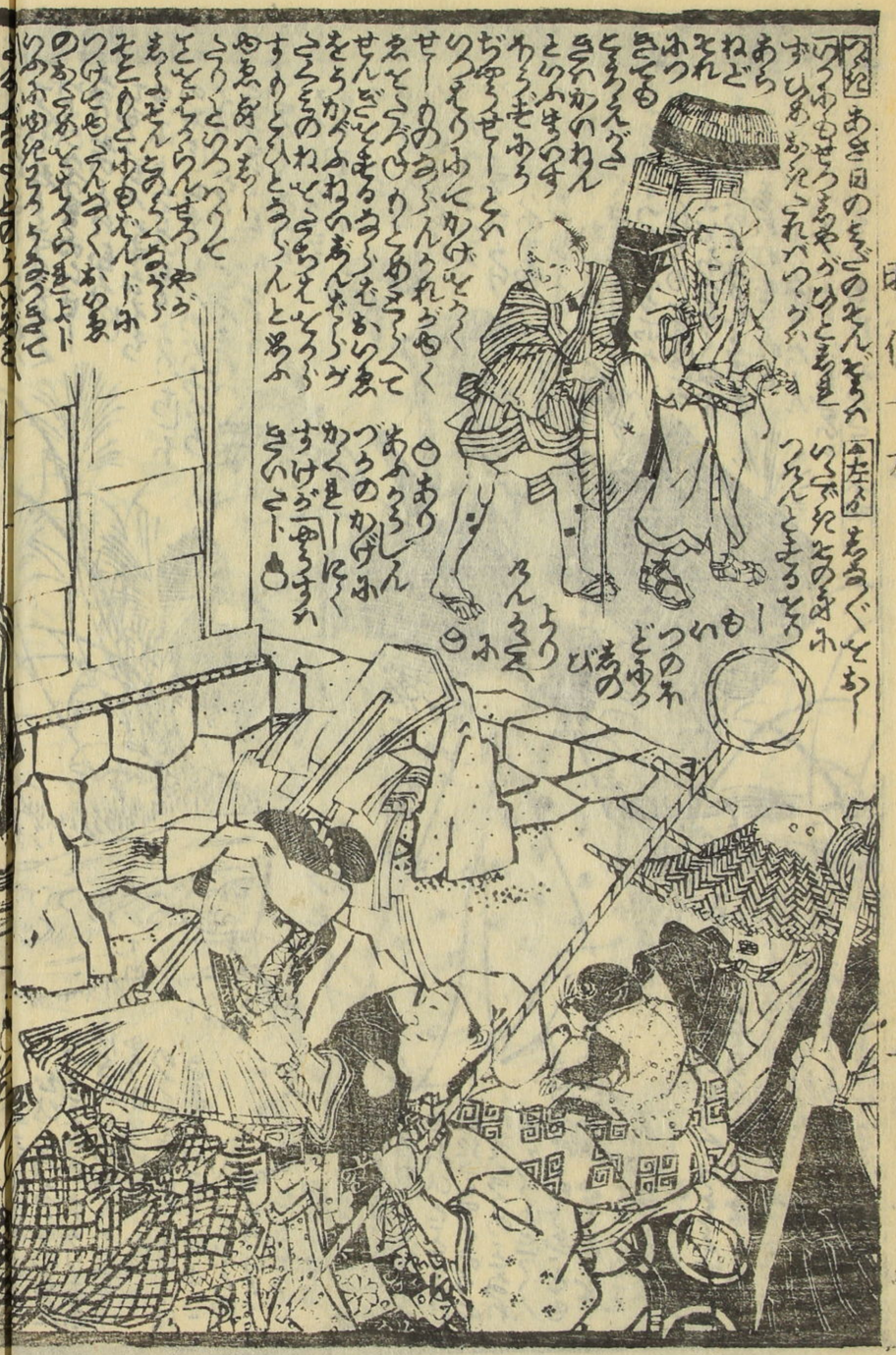


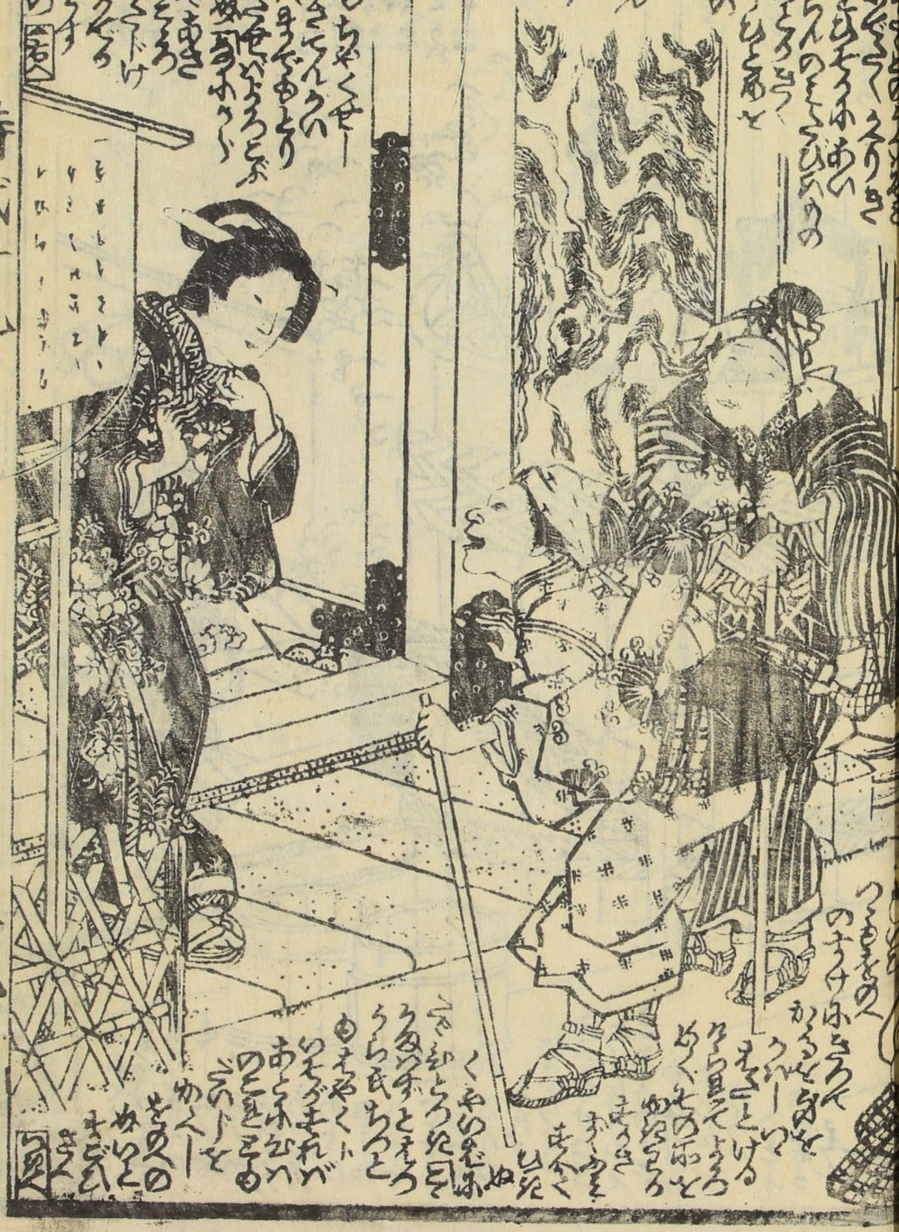


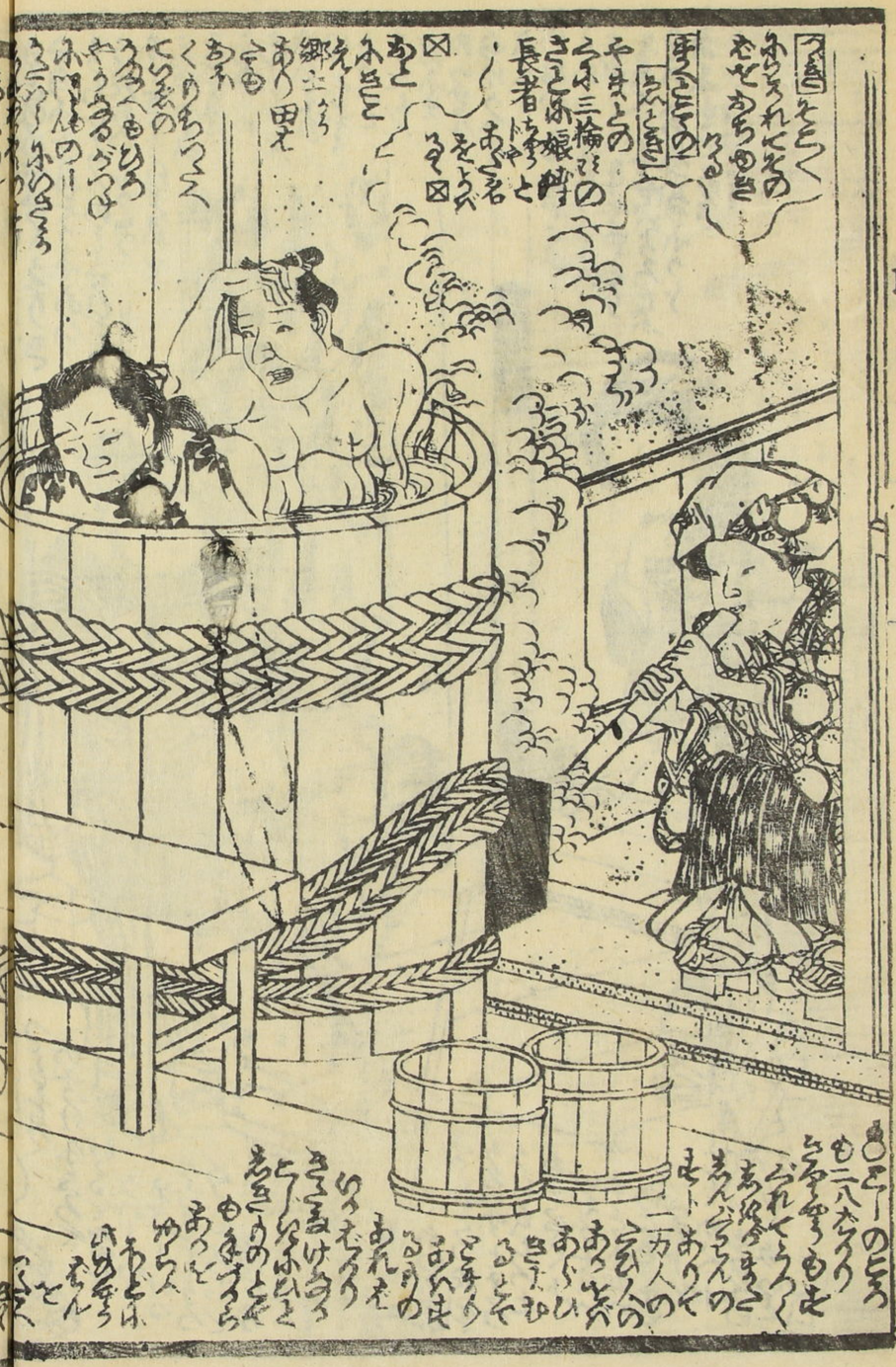


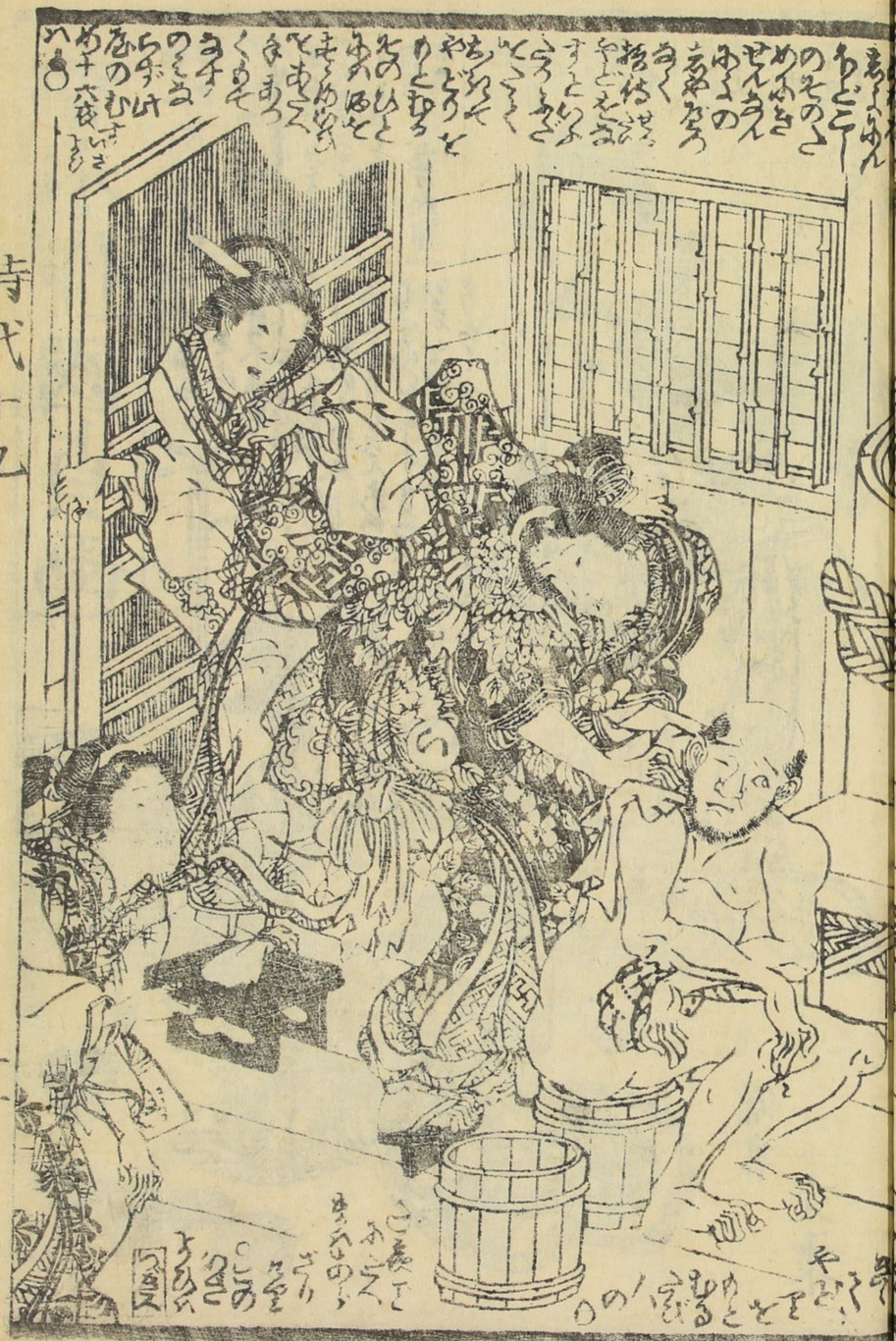


勝
弥
右
左







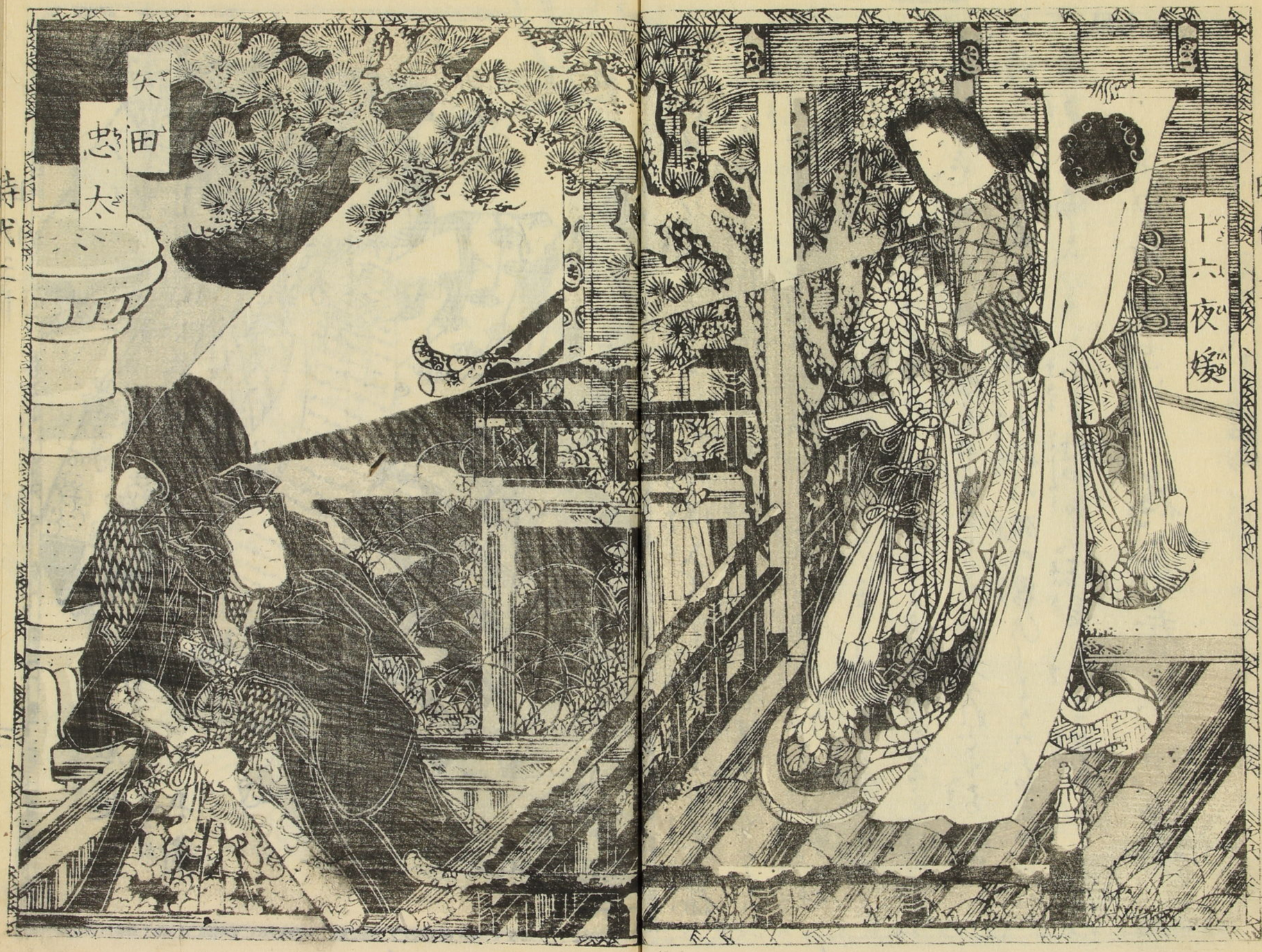


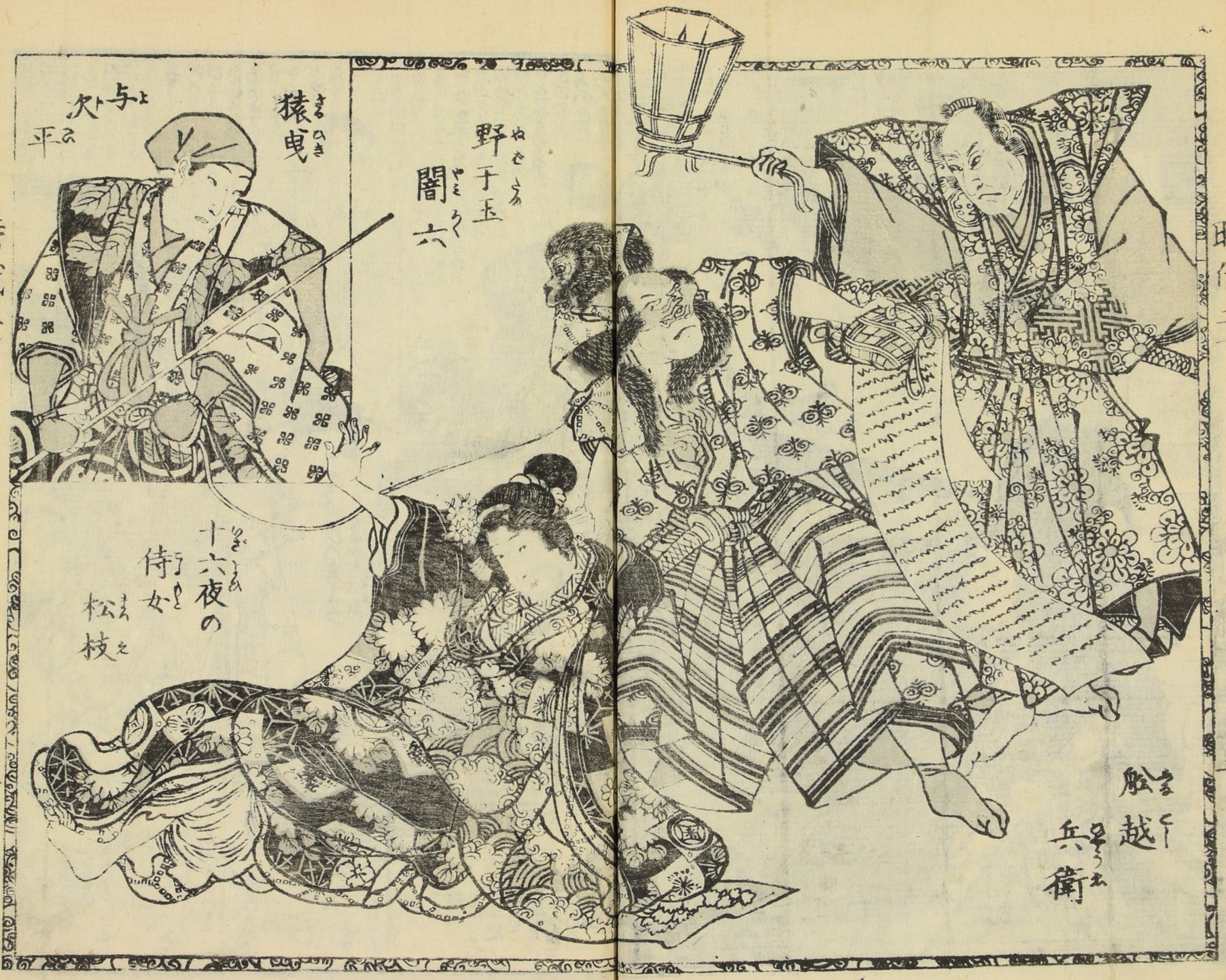
春水作 國貞画

学試物語を編んとするに。先豫條文をしてく。甲は恁ゝ乙は又角様のゆゑに倣なんと狗の裡にて測り兎しも。俗学を揉るに以てりて。涸亀せざる事をなすにて。数向に枝葉の嬉しのなりて。大約一帙に綴らんとせしも。二帙三帙にあるものの多かり。余をそれの習風とし。若左に他者の後業を記す。這は看官に楽歴をいんをして。後輯の幕明にて。姑く引張る板元の用心にてはなるべきれども。おいて記し。詳さへなれば。変りしも既て大和乃殿の思ひしよりは。まゝ抱れつ。遮莫廿一編にはいまく正月丹四郎が信義の傳に賢ぞんかし

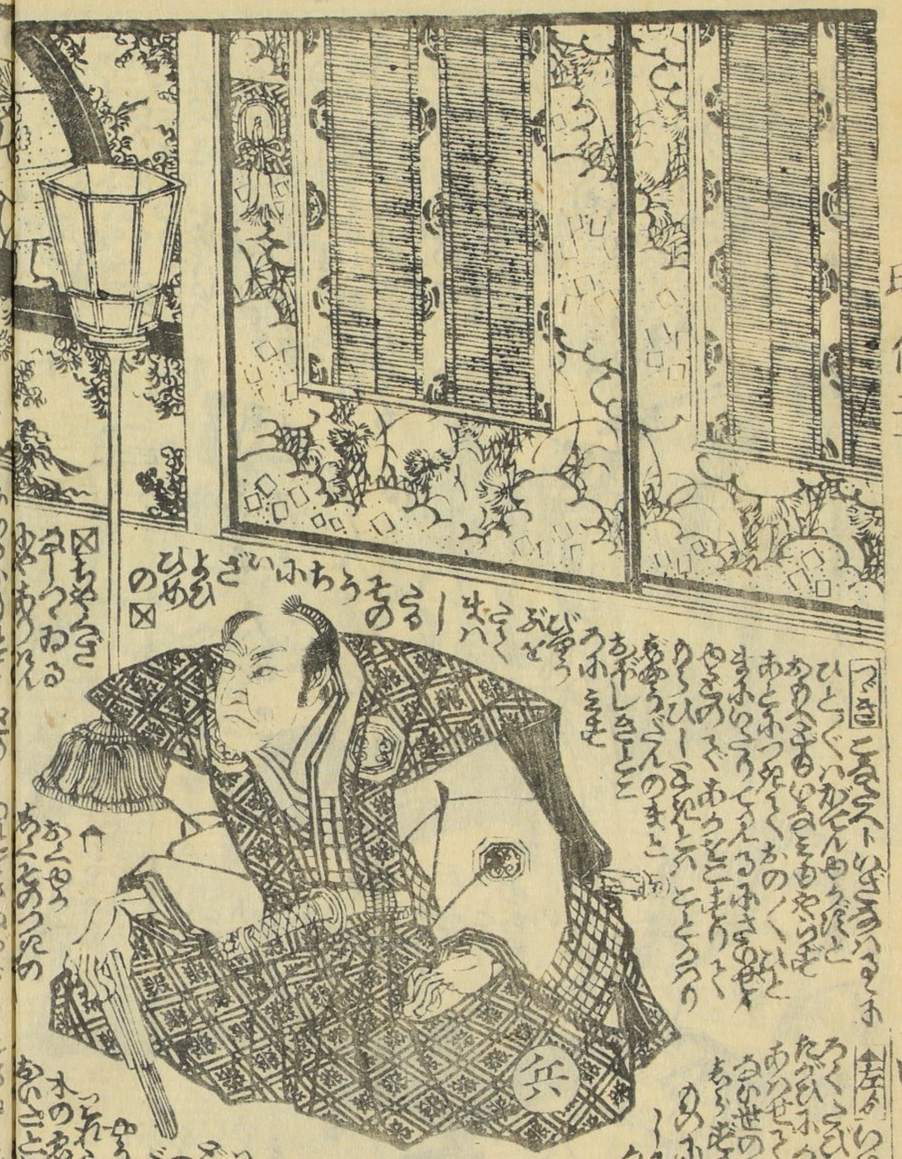
庚申新春吉日

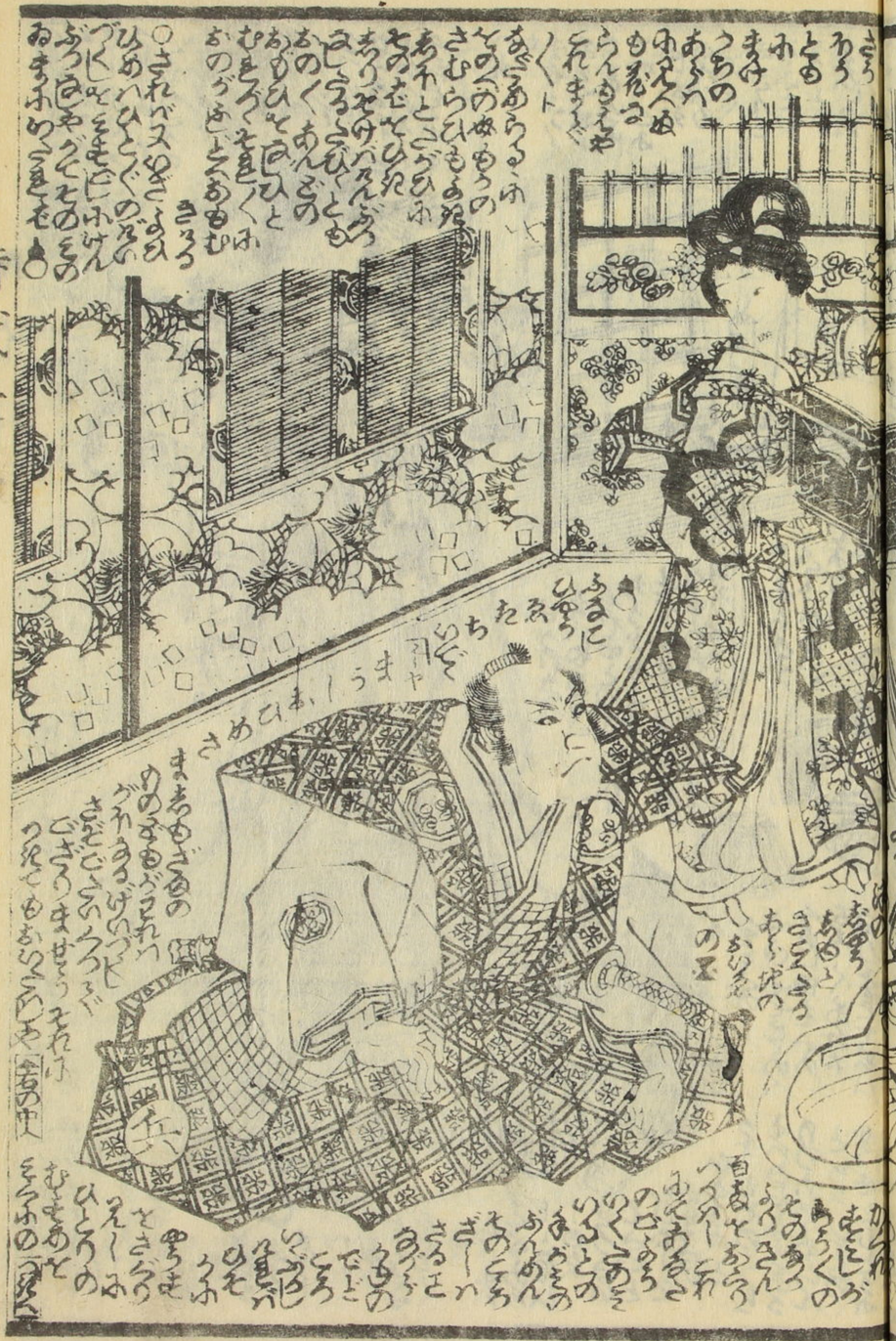
為永春水記

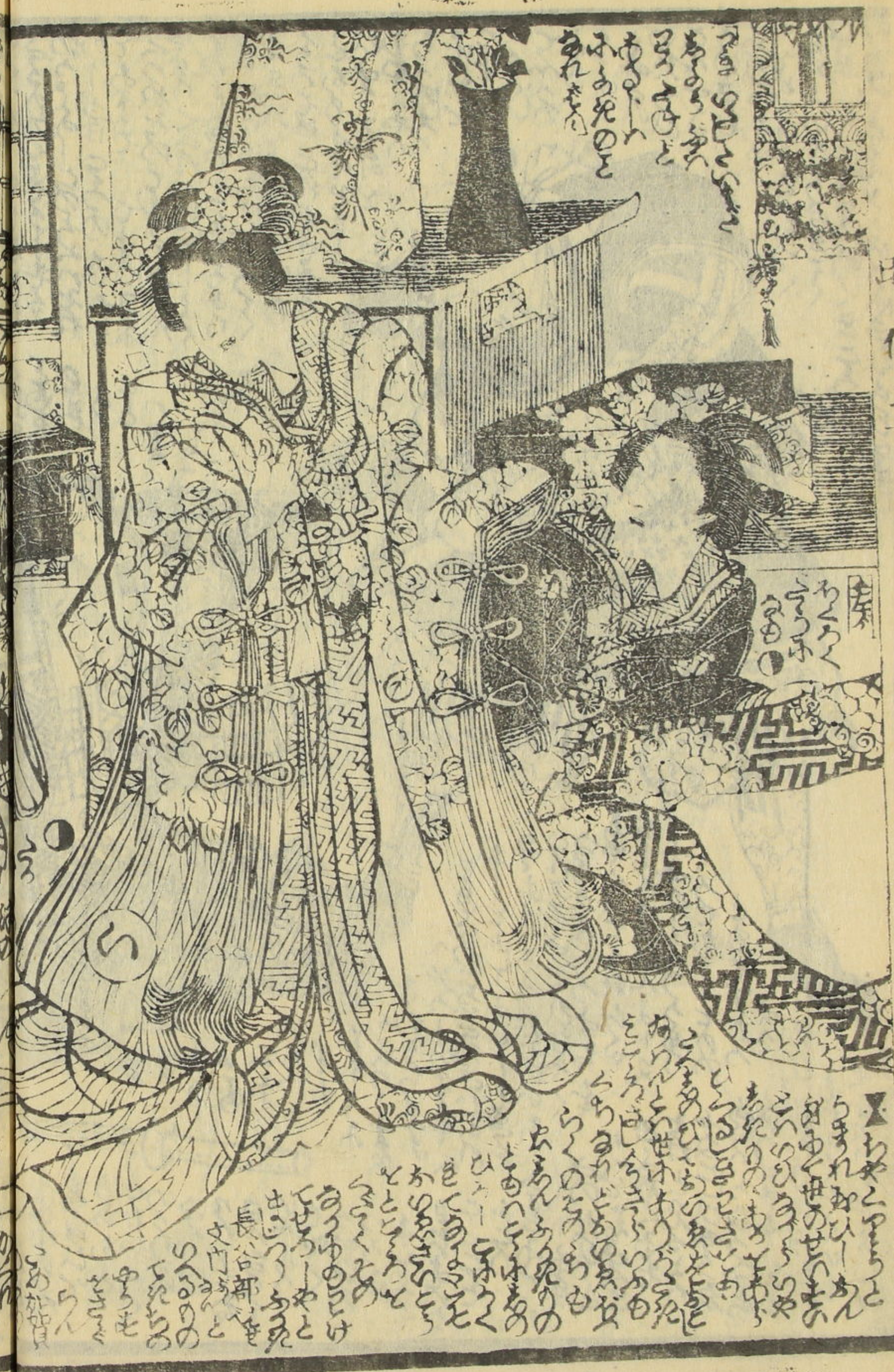

十六夜媛
矢田忠太



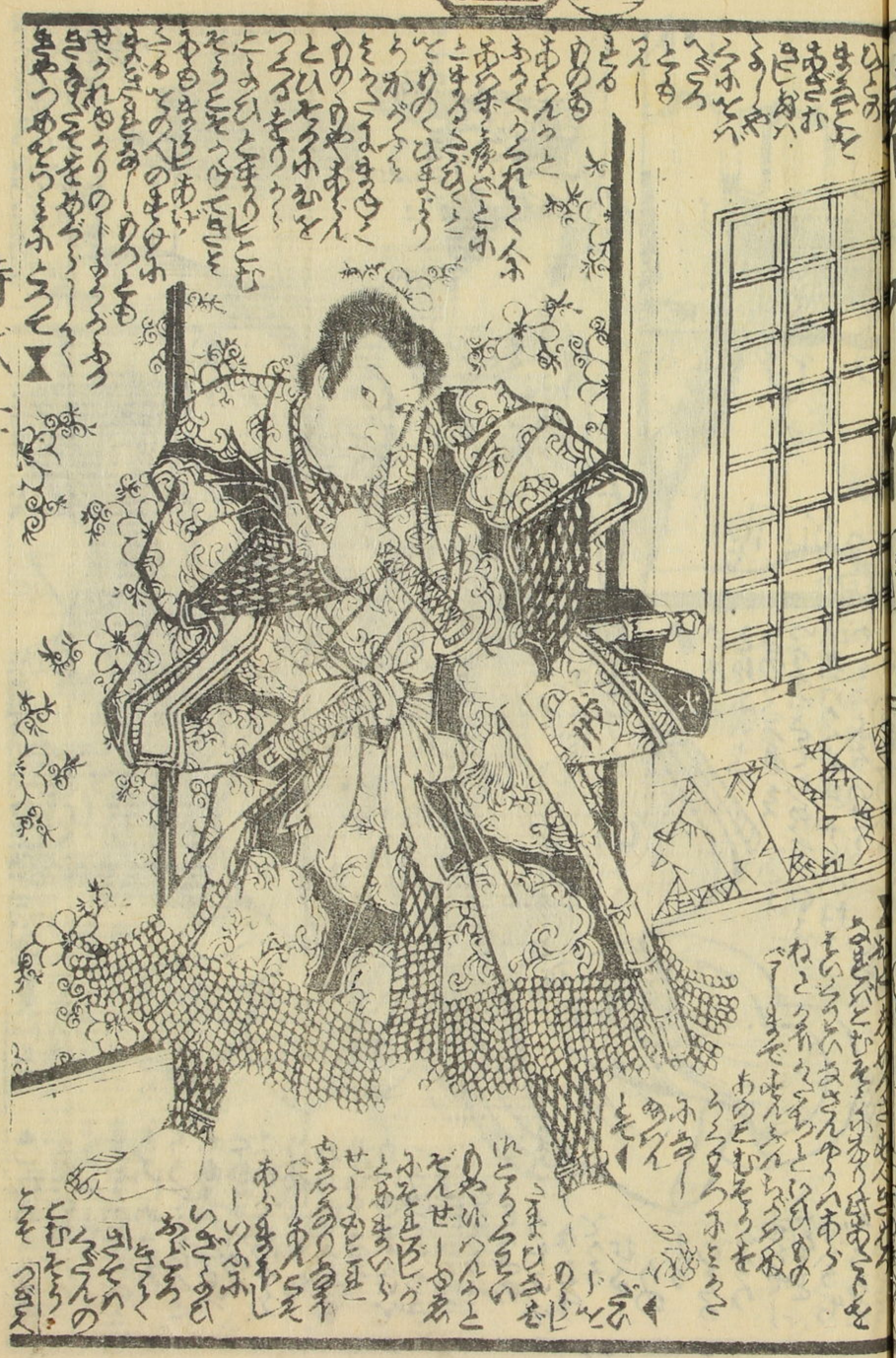
与次平
猿曳
野干玉闇六
十六夜の侍女松枝
舩越兵衛

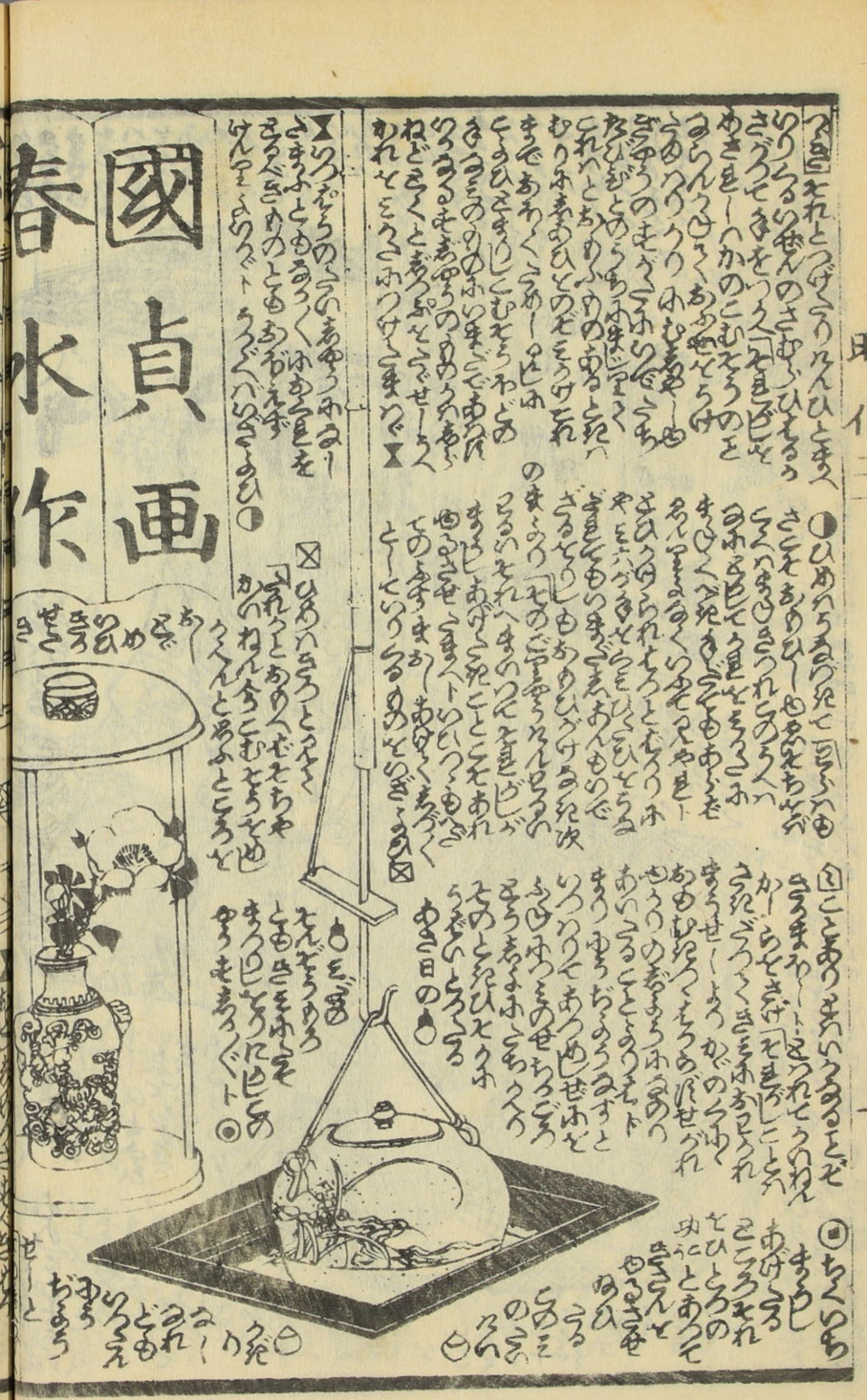

兵

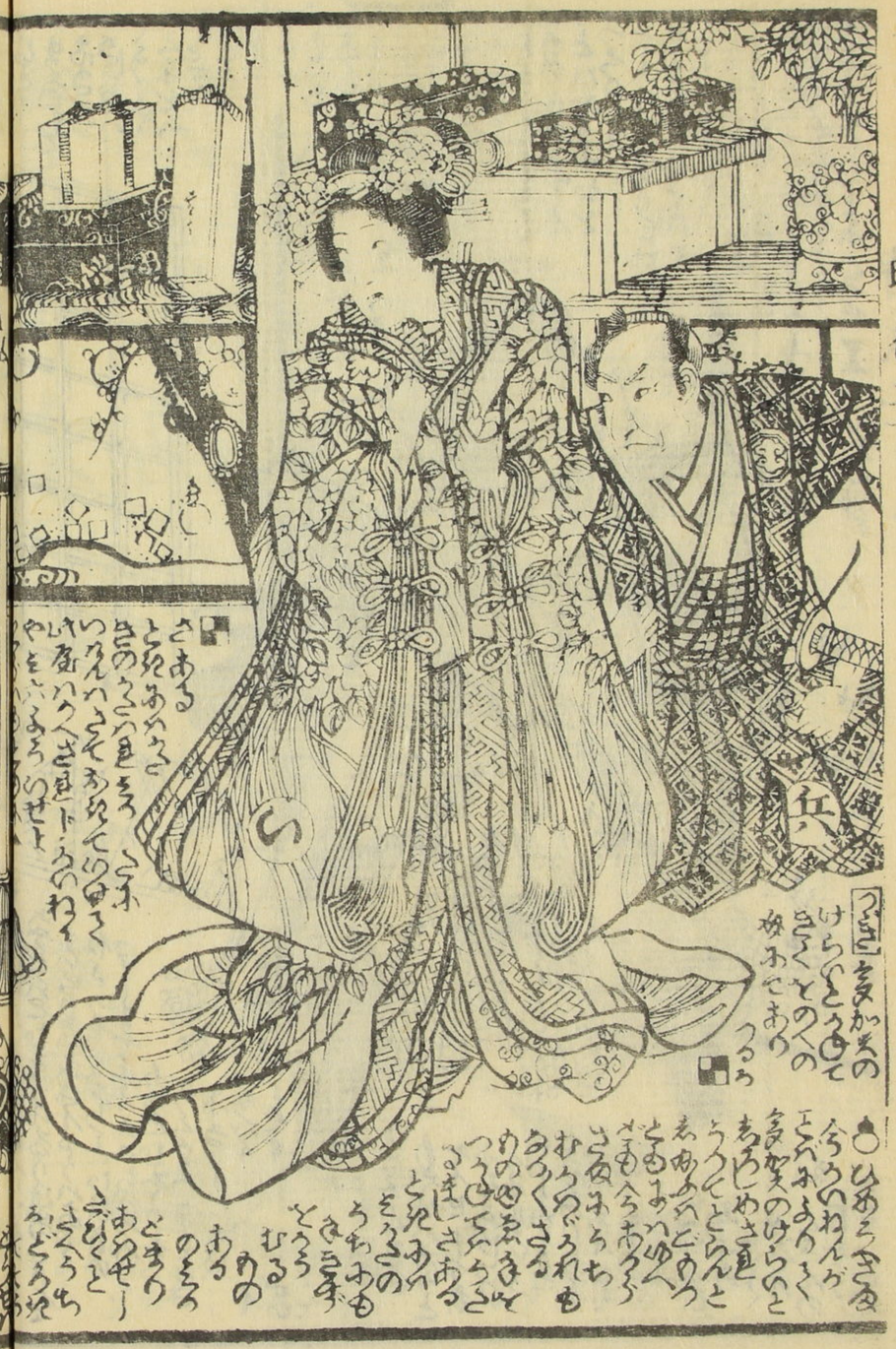




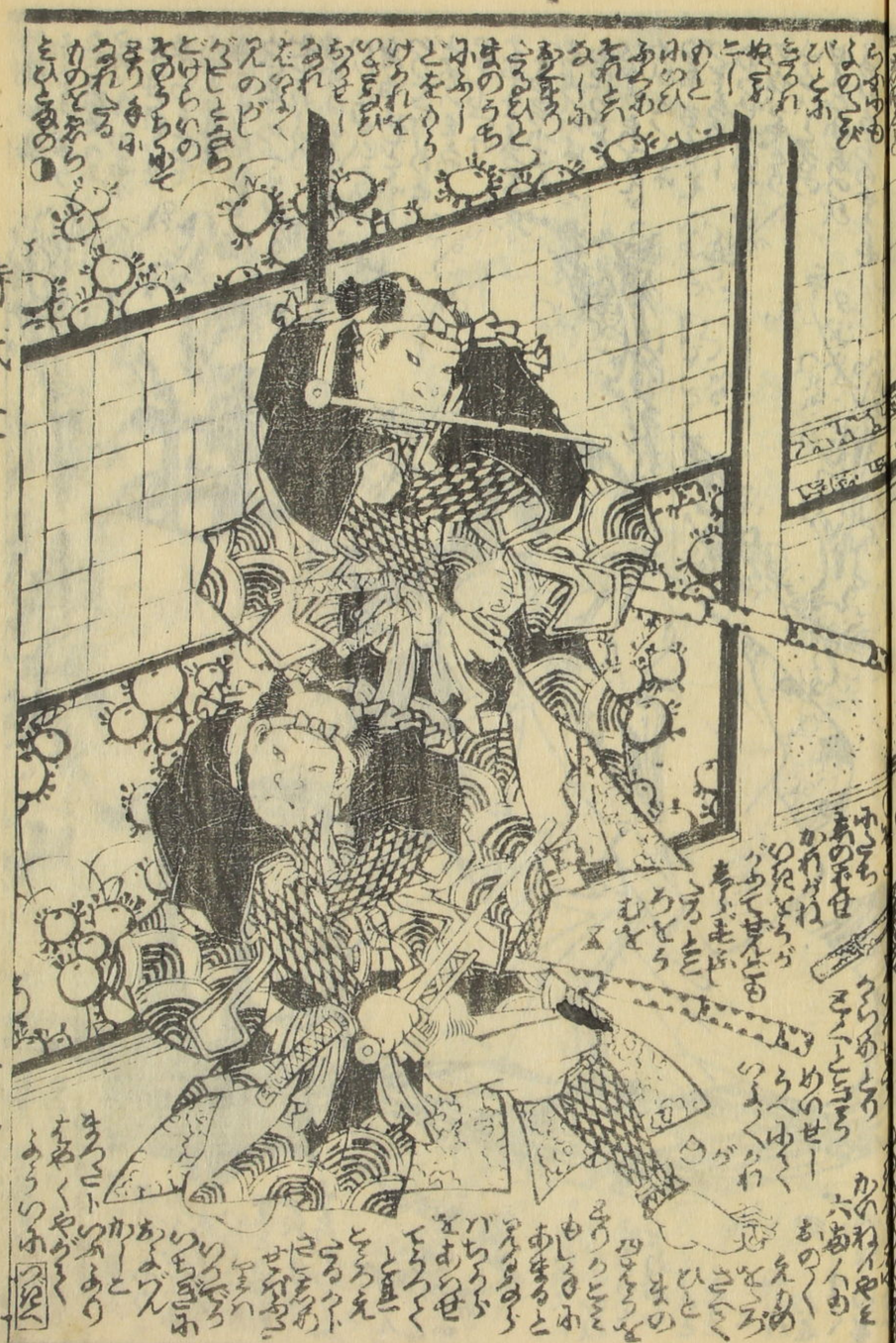
國貞画 春水作





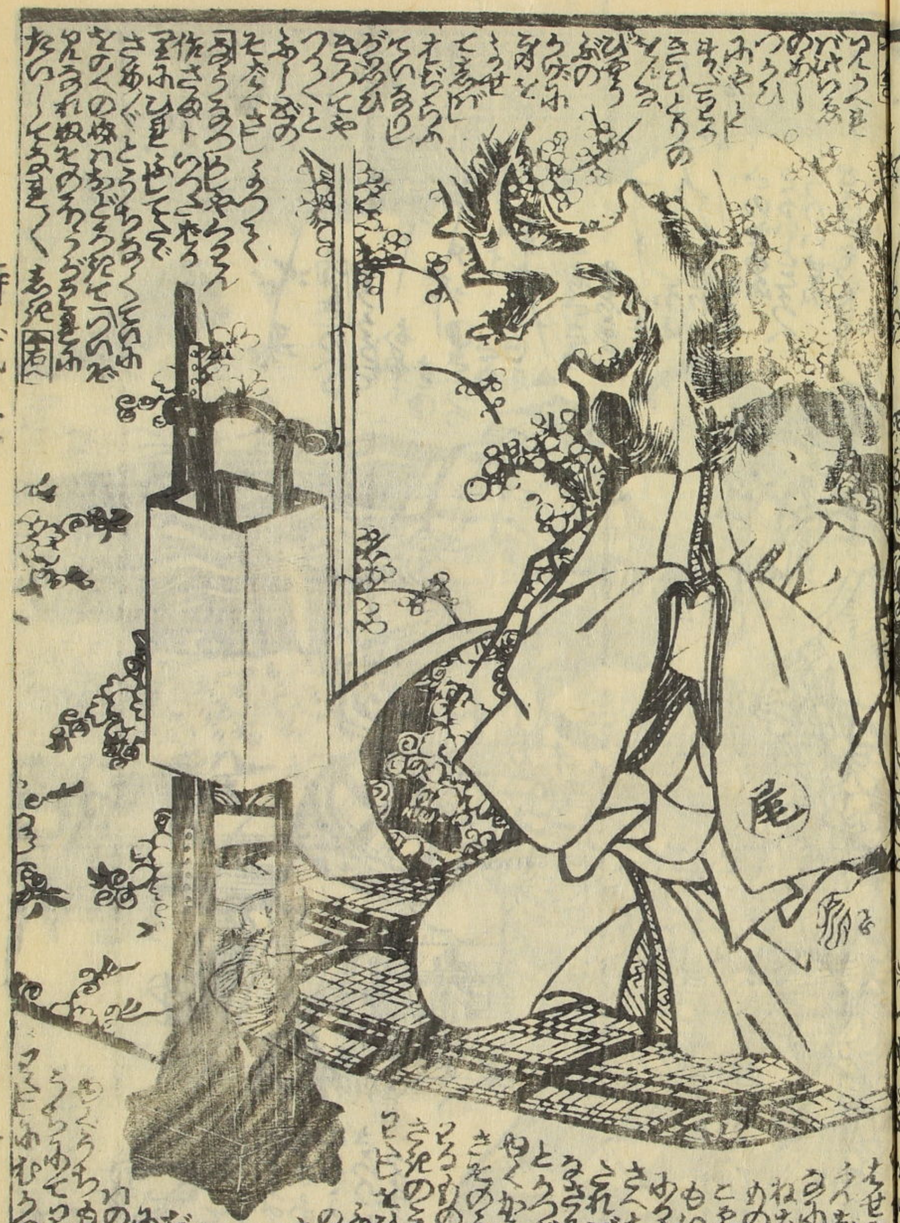


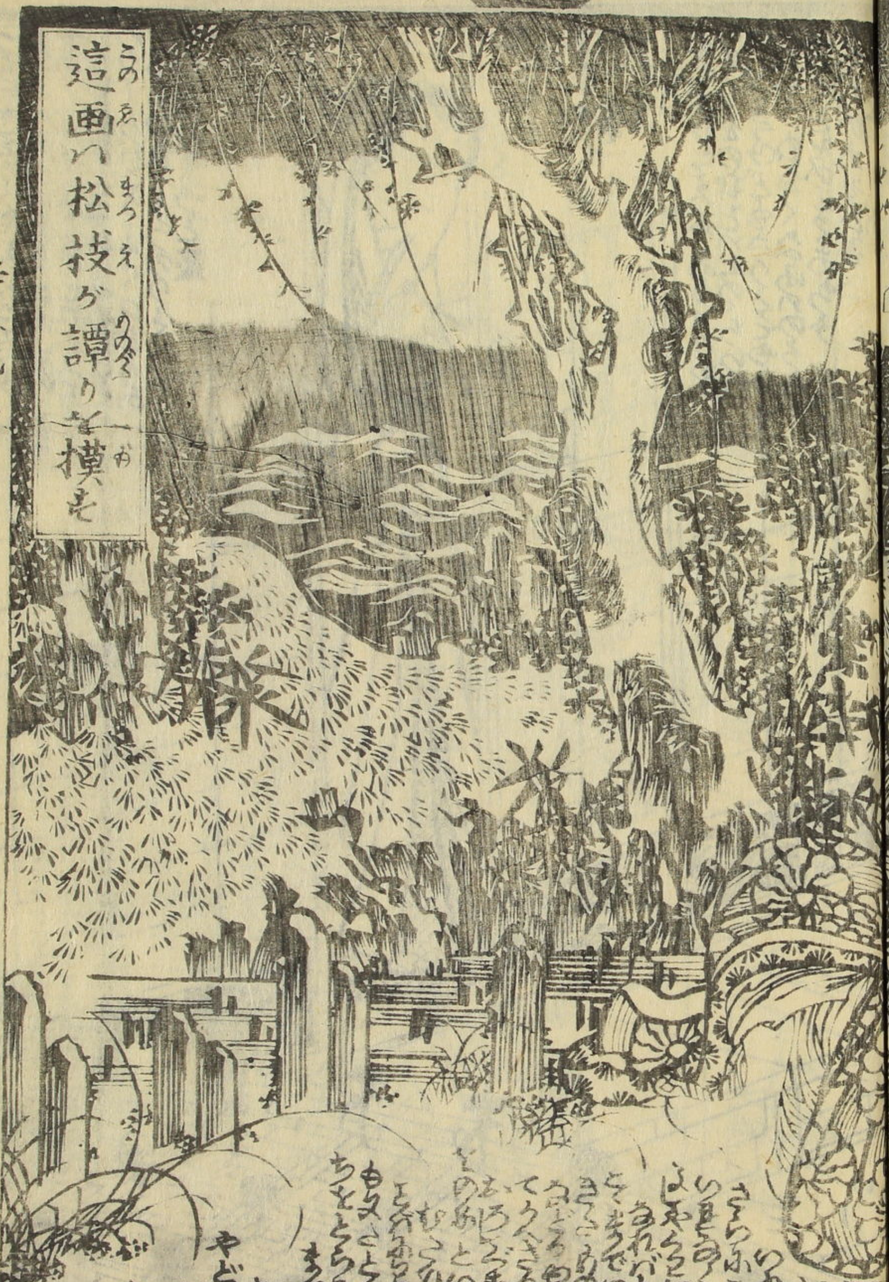
兵

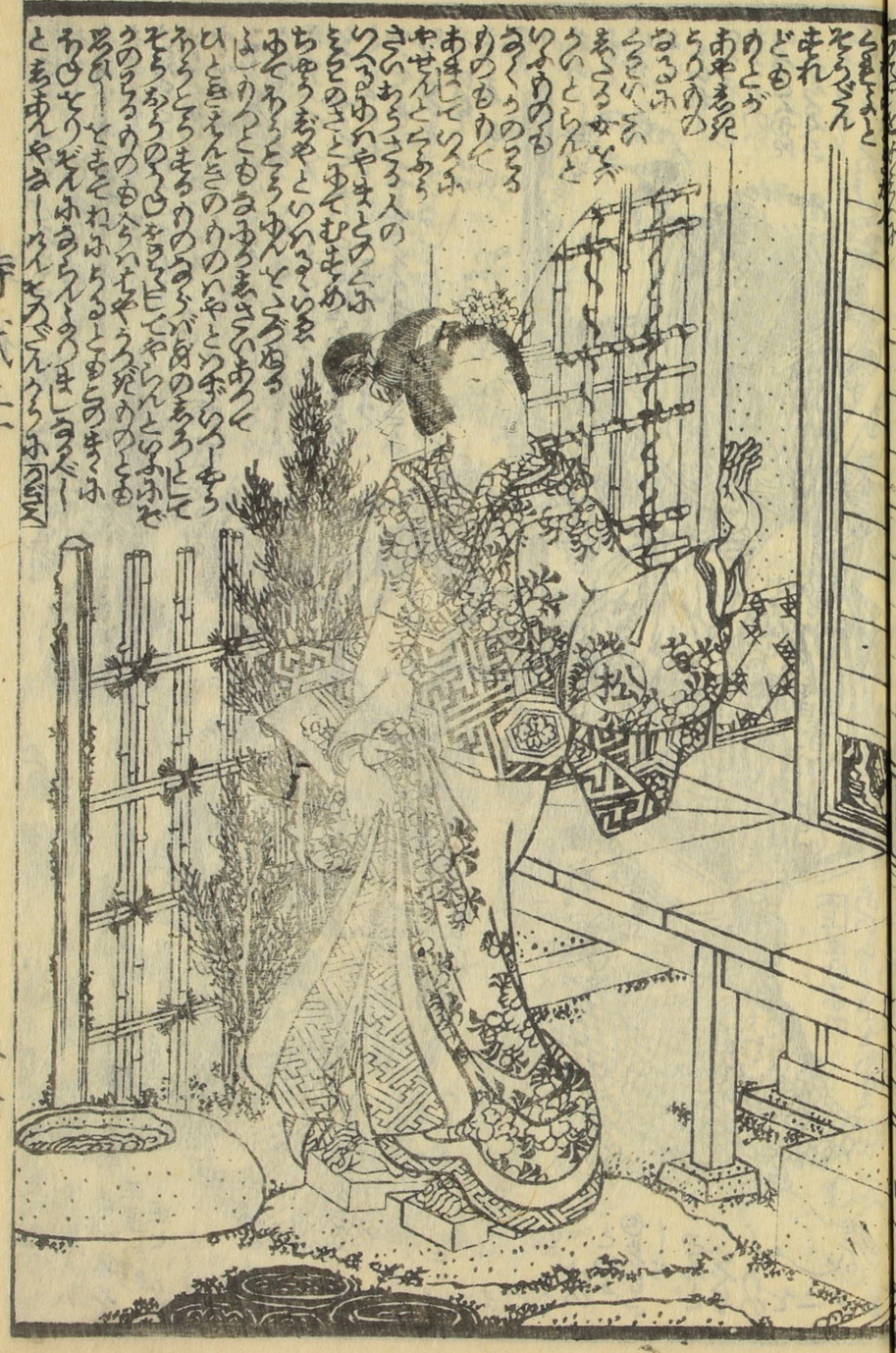


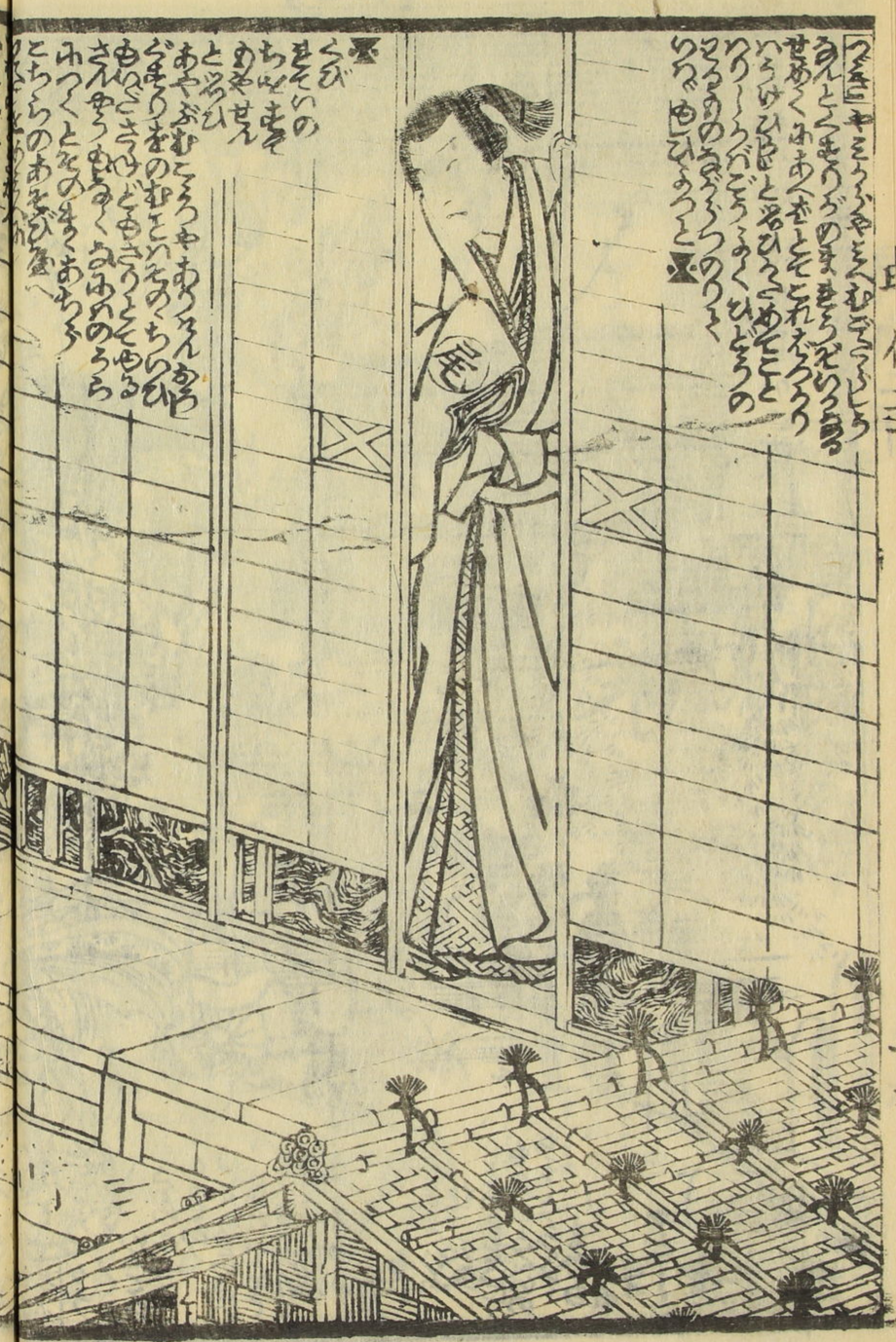
尾

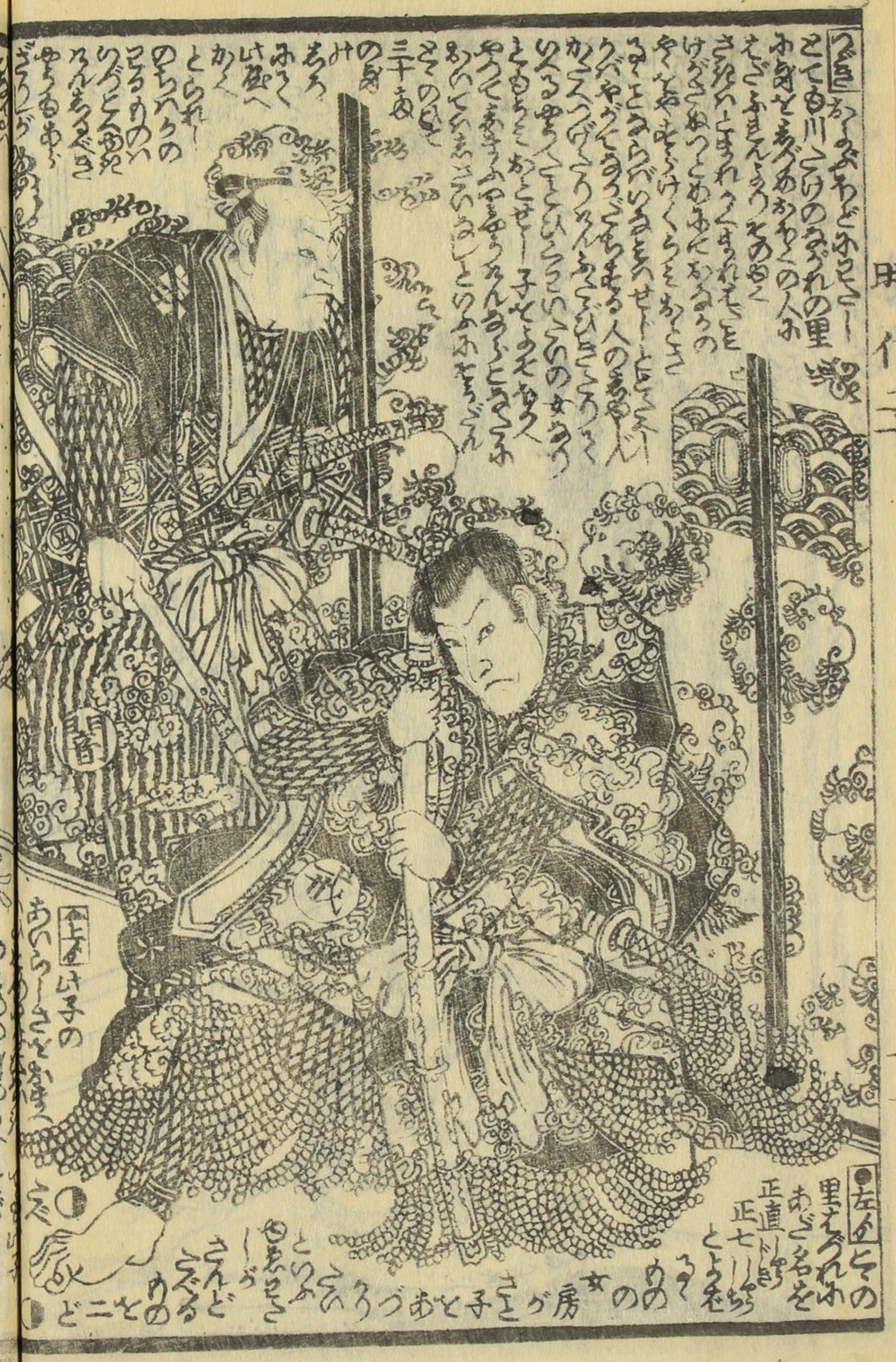
松

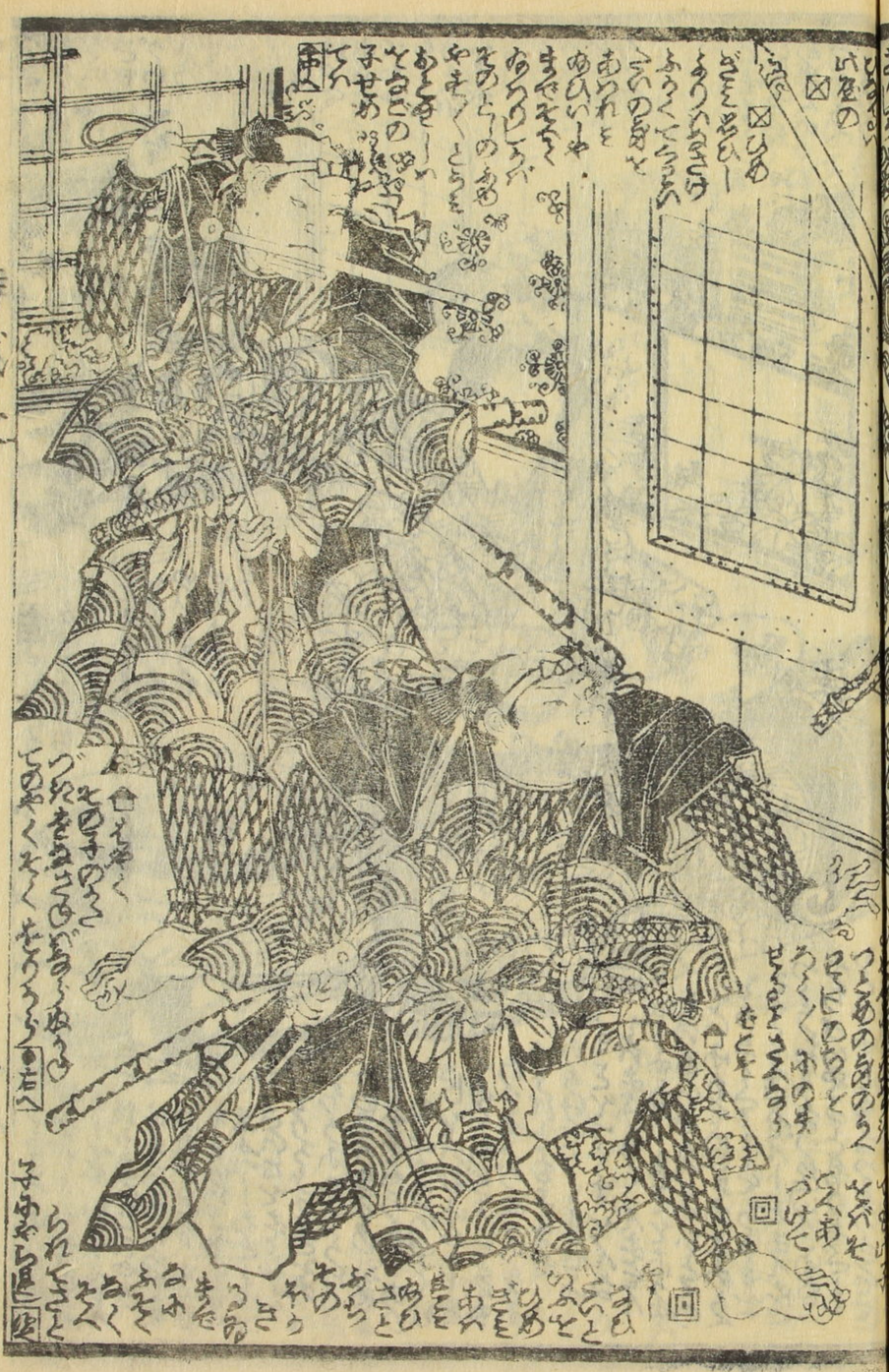


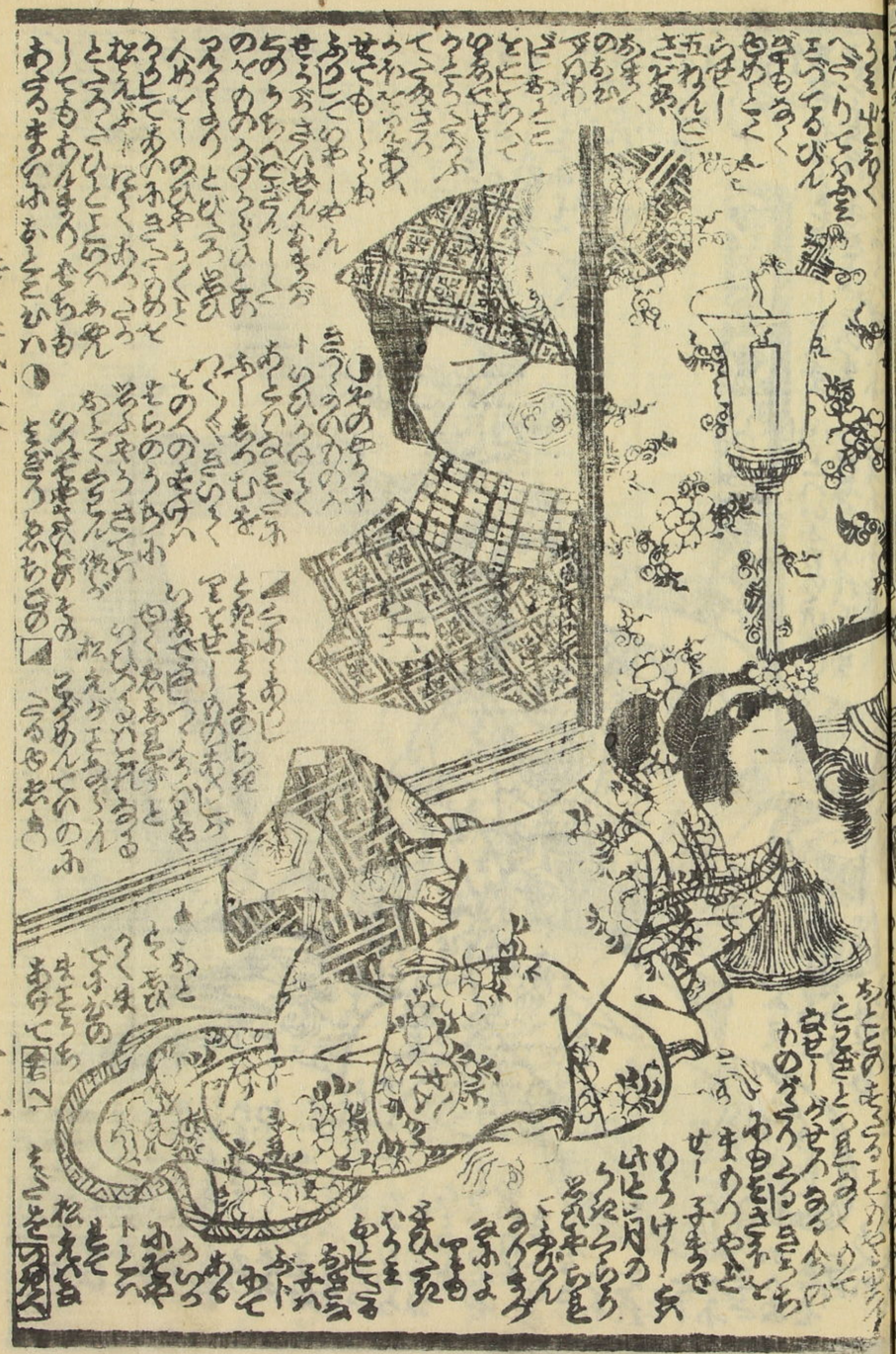

這画ハ松枝ガ譚りを摸を


松


尾







松

春水作
國貞画

七夕の短冊も五日の甲夜から竹に結び月見の團子も夜明ぬうちにと物咸速き我旨とせ和まで初春に出せ合巻も秋ぞうちより賣出しの魁をなん急ぐ我もうく以づまの書賈も催促の世としからぬ事ゆらざるに就中ならば時代加賀見ハ初編よりしきく毎歳ニナ五六帙ヲ編めといふ豫の需ありける我去稔ハ僕も繁多くて筆を採る日の稀なきバ總ての著述皆かくれつ遮莫今稔ハそれ報をと壁に馬をバ乗地に和つゝ夜なべ我かけてのざらだらう急案麁漏の罪ハ御免ゆへ

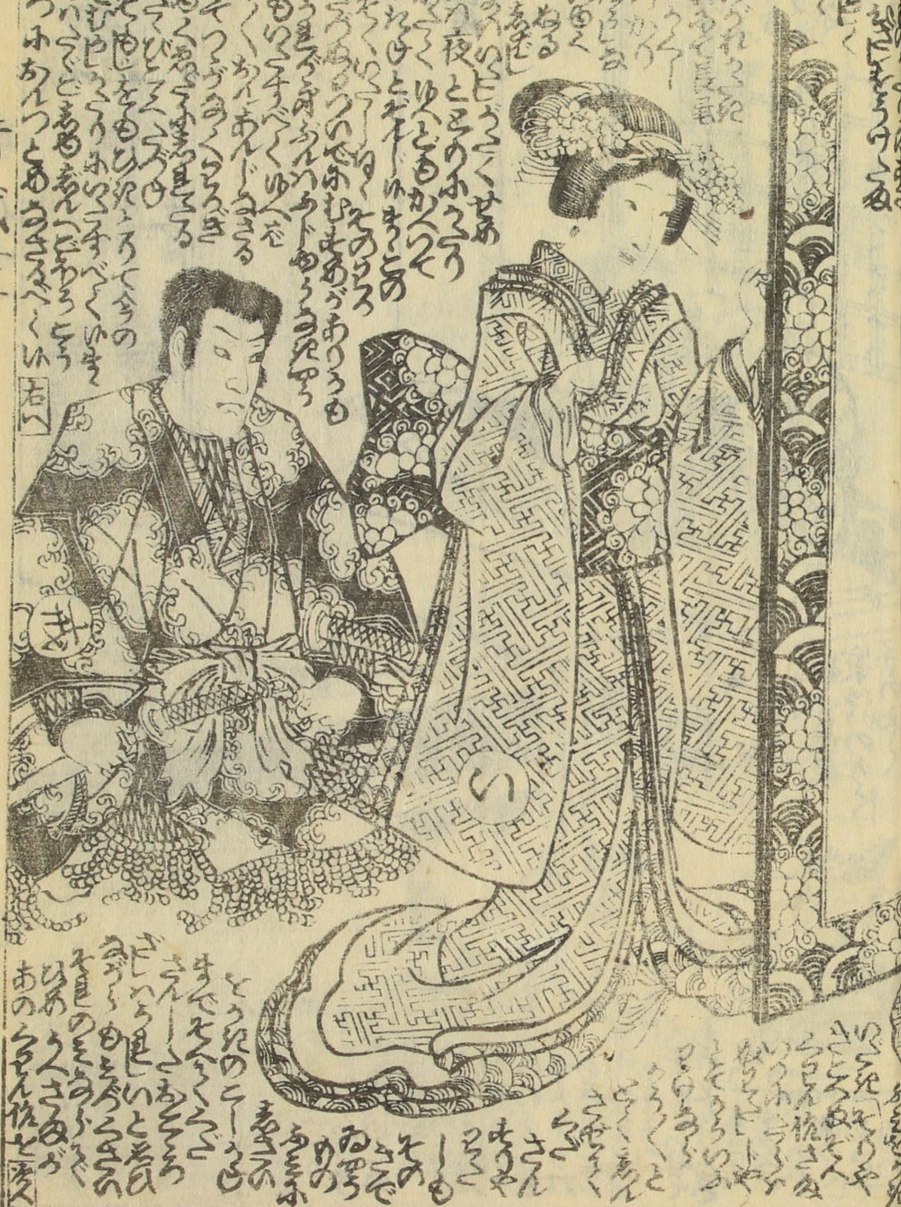
庚申早春吉旦

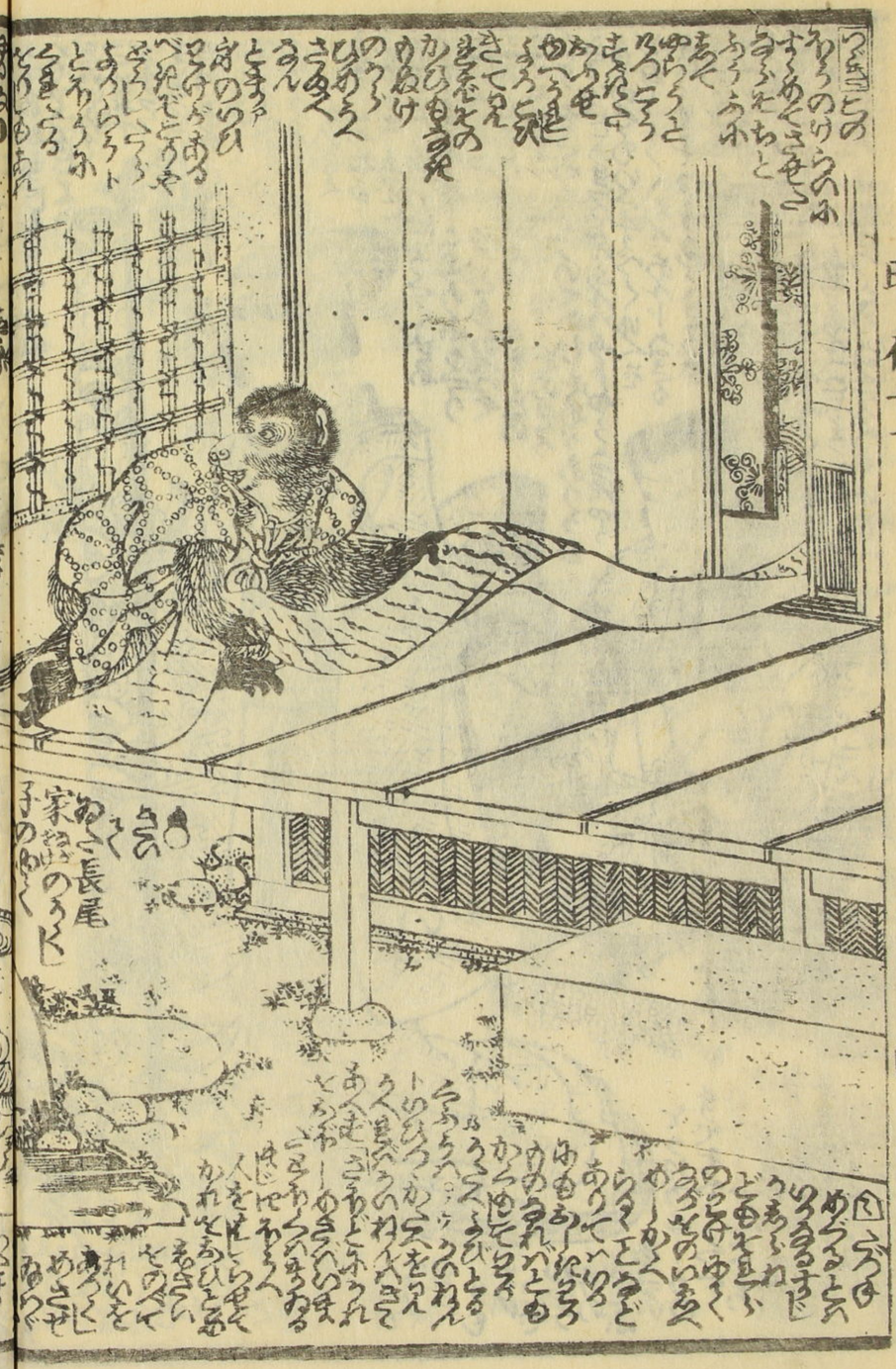
爲永春水記

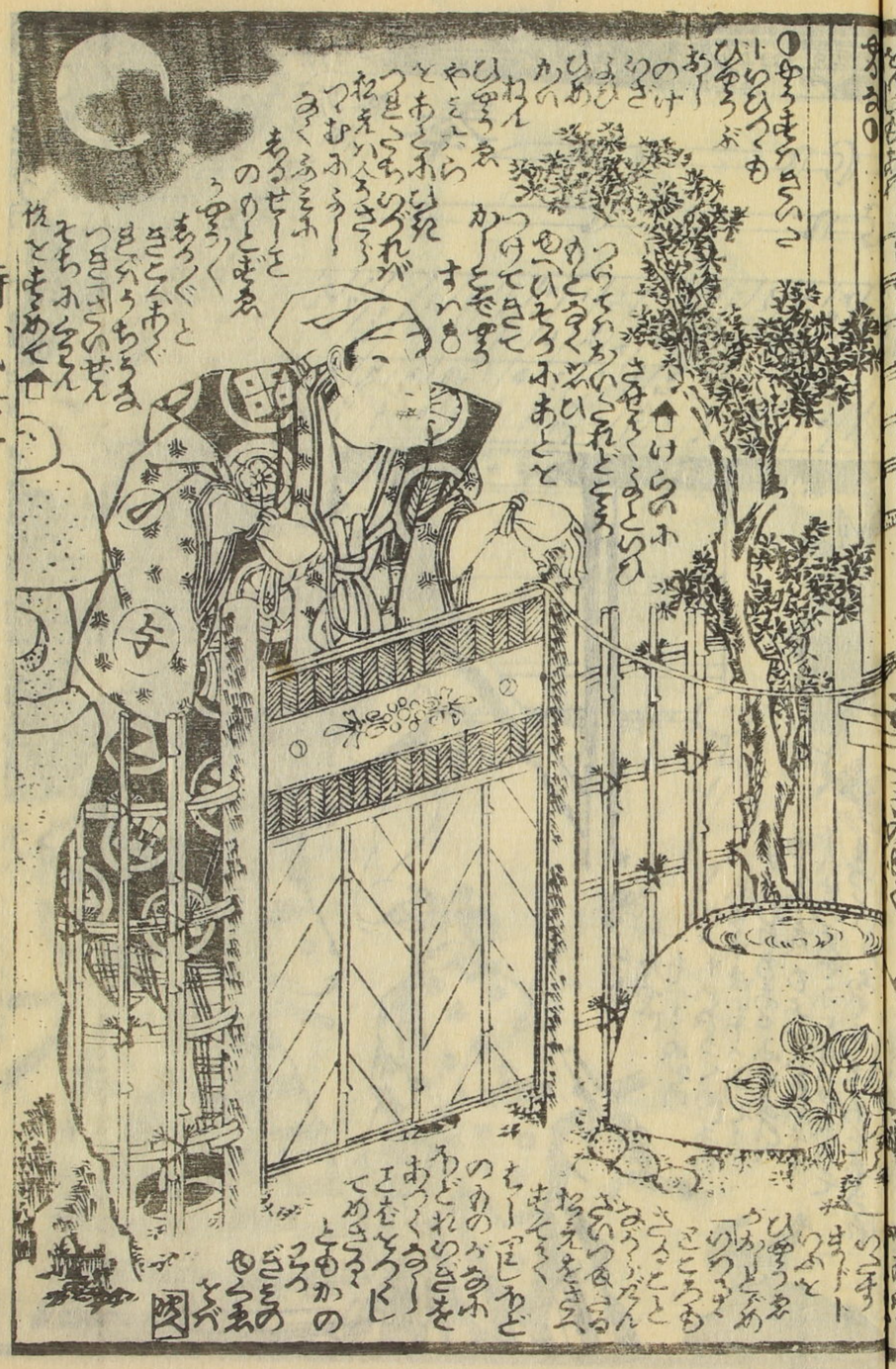
上无無上太

花作女房阿十字

正香
丹四郎
鷹阶者
花作





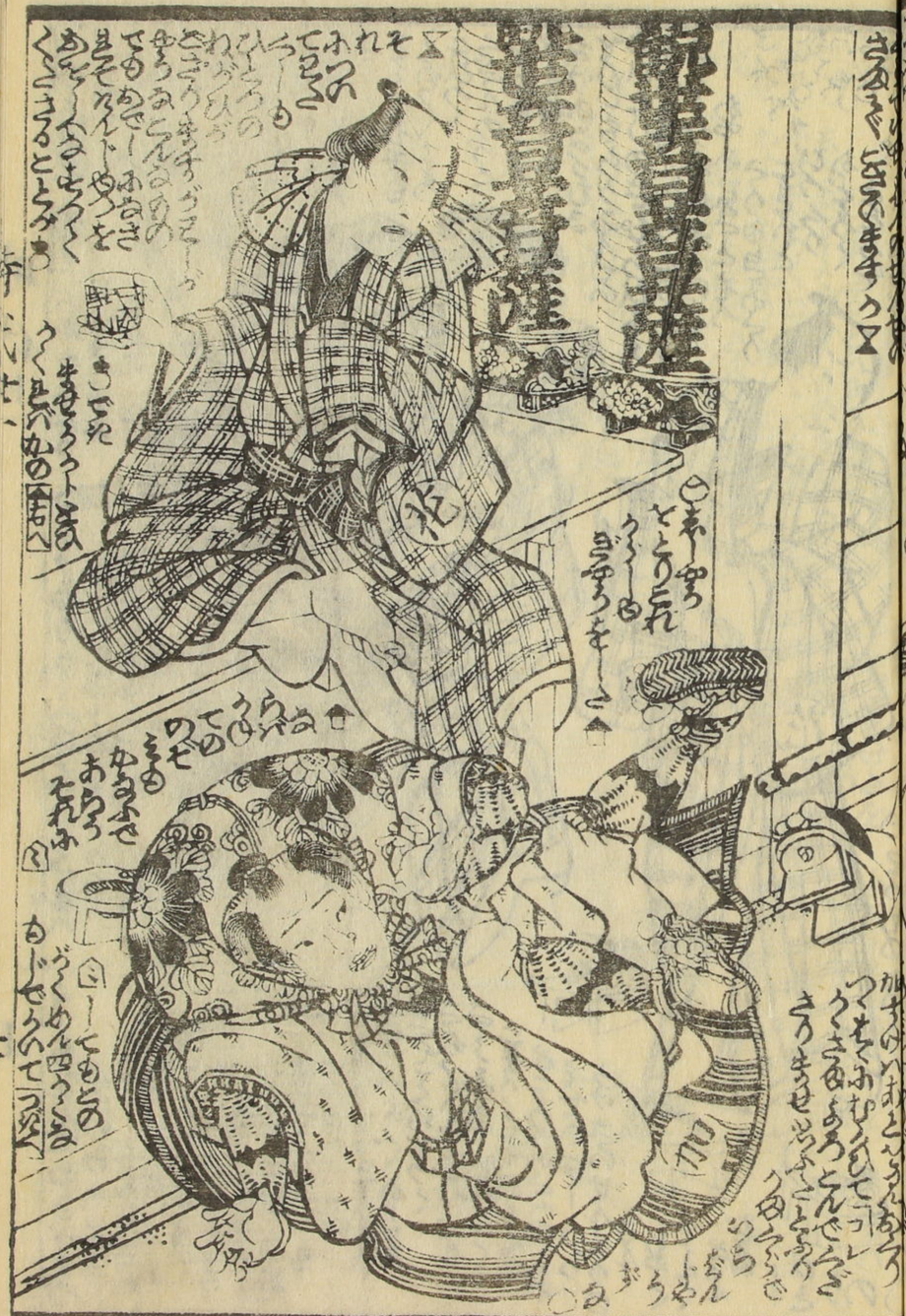


老
加

奉

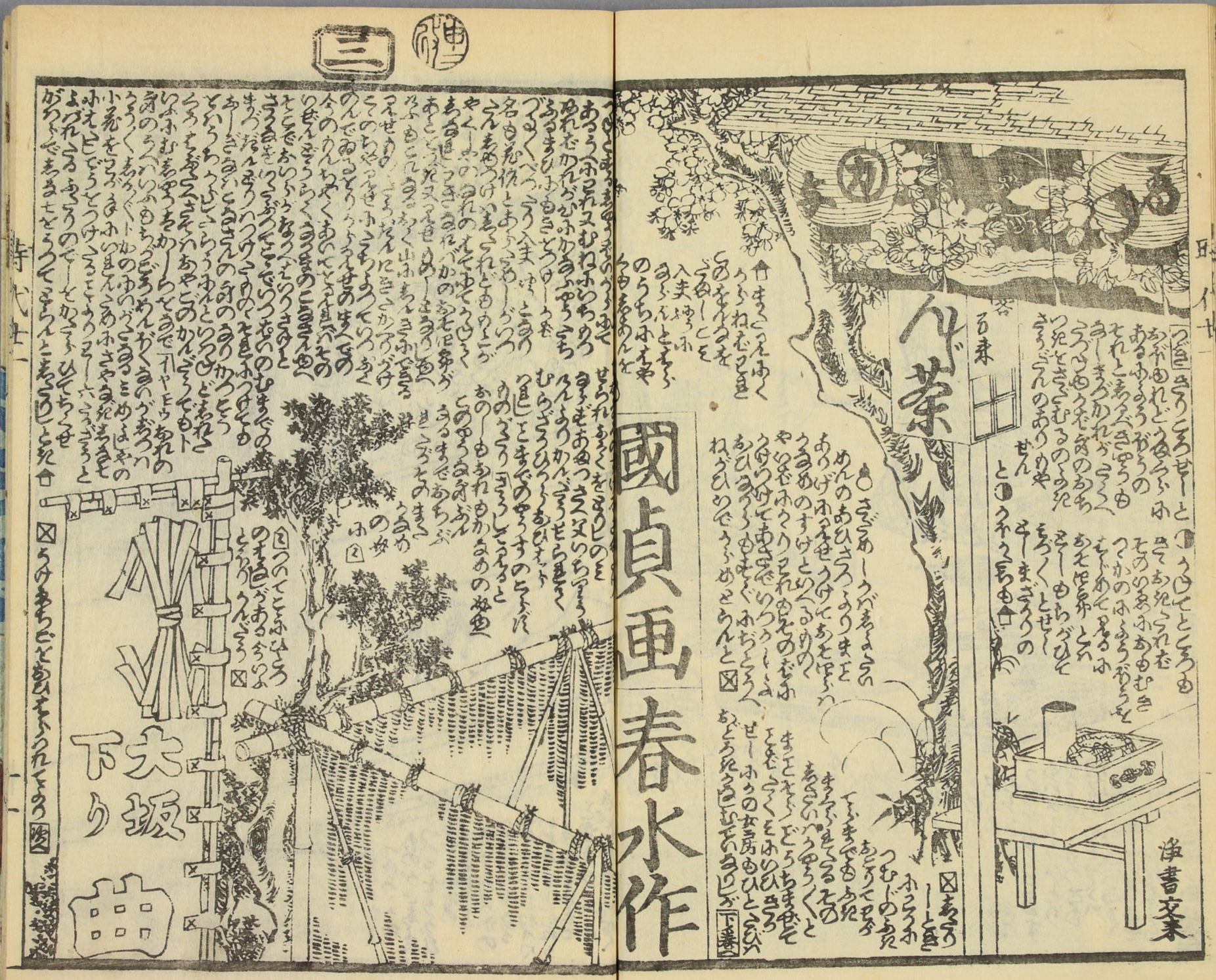
つらがくをかけんとていうめーげるる
さむらひぶろうたろうくるるものそこ
ろく六十あまりの母てつれくるるものそこ
そろうのたびくとぞこもわたもろう
さいせんろうけんぶしくねろうしう
かのくらひくとんぶしくをうぐめ「ろーい
のろうのうのうれたびつけうろうり
ませんぐろうのふあくぐぶどろしさ
とけてらのぶろうのろうなさいもろう
ぐくをべうろうのうなされ
生すーあくまろうぐさひ
かくもかわせいおねろー
さむらひどものろうふりとろぶ
えうくろうて「ねろうかく
でさひとてあれいもろ
ぬのもかうとも生を
くろうがくかかりて
ある正吉さ丹四帝
ぇい」というろうろうれとろう
ひろういあろくて
一とのつぐ二とさが
らあけんまめつの
ざいせんせいさぐ
ろえおちいさく
あのてあるのうまさろ生の
ろうのんていそのてーぞもぶ
ろうあ」てろふとのぞくを
とさあるのぐろうぃとさりぐ
うあれかーいふあとあろうえん

あそーふみさるでもろう
いふくそうりかおう
あろうれのことまで
ろるがのくせんぜのの
まくいこのろくも
あれがとうつぐ
あそやらろうト
いそまそ
ふとぶ「ぢ
ありぐろふ
どざうまろ
こ
ぐ
名れ
加助とそ
んとく
ろまのの
ふくろうりの
ふあぶんあね
ぐぶまろしまん
そこさあれ
えん四をぶまあね
おどくとーくぐも
ふろちおぐくもろぶ
おくかの まろひろうあろ
まろーさむらひれかのく
かまのかおとんろうあろう
つまをふむひてコレ
うくさあろとんでそ
ろうまさせやふさとろう
うあろさ
ろうぶんろ
ぶろう

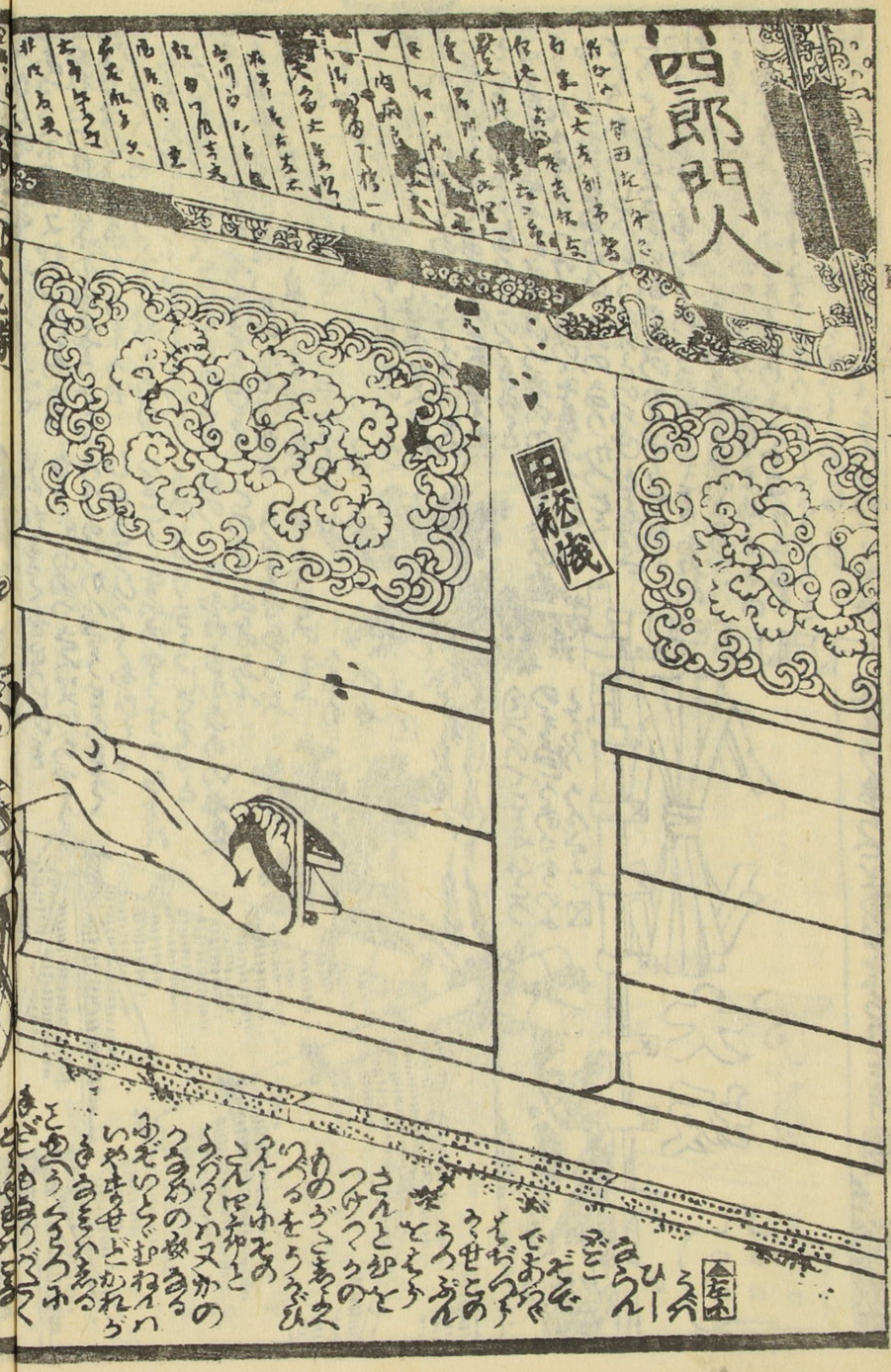


花

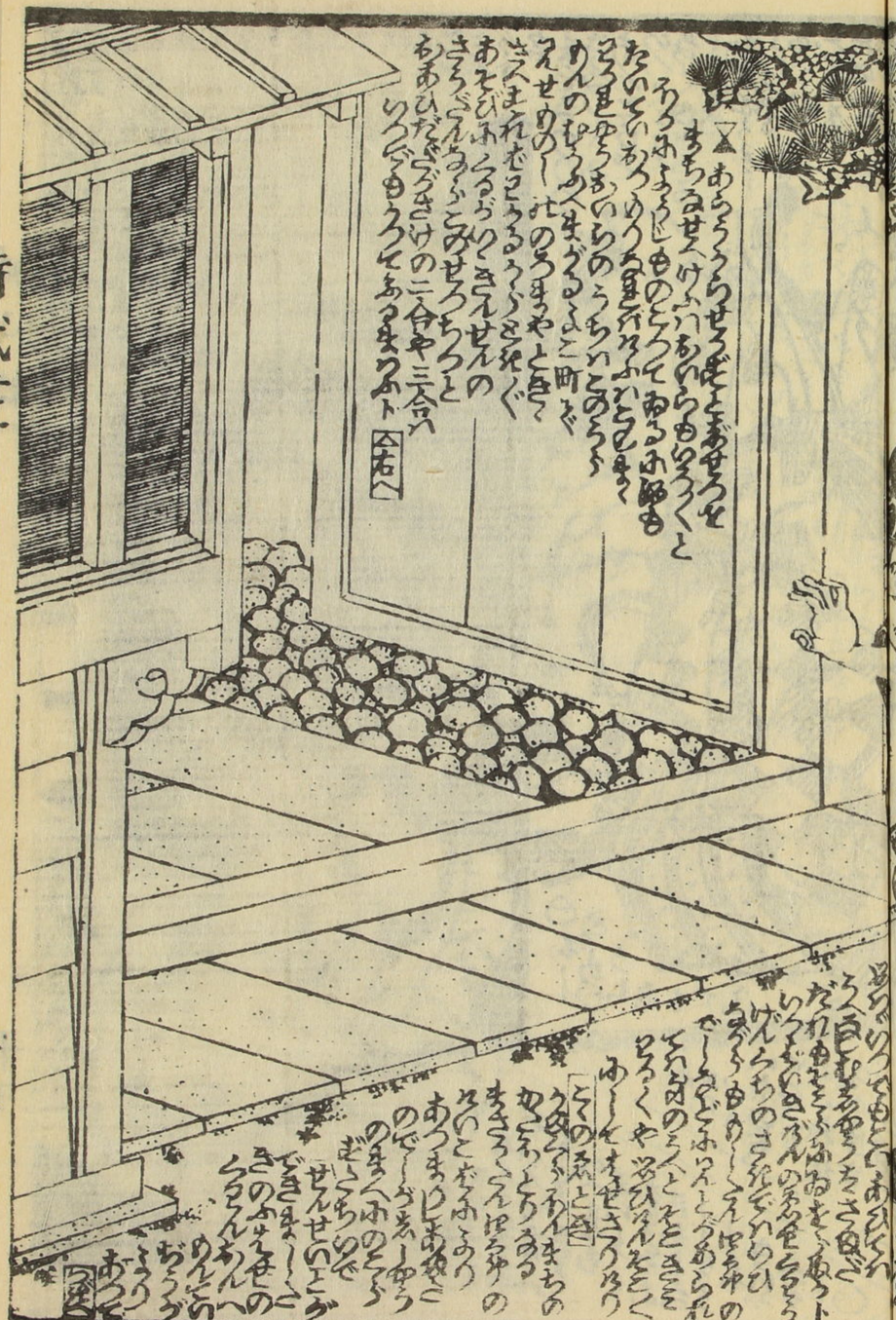
常夜燈



三
大坂下り
曲
國貞画 春水作
浄書交来


四郎門人
田秘浅

八九勝
花
无

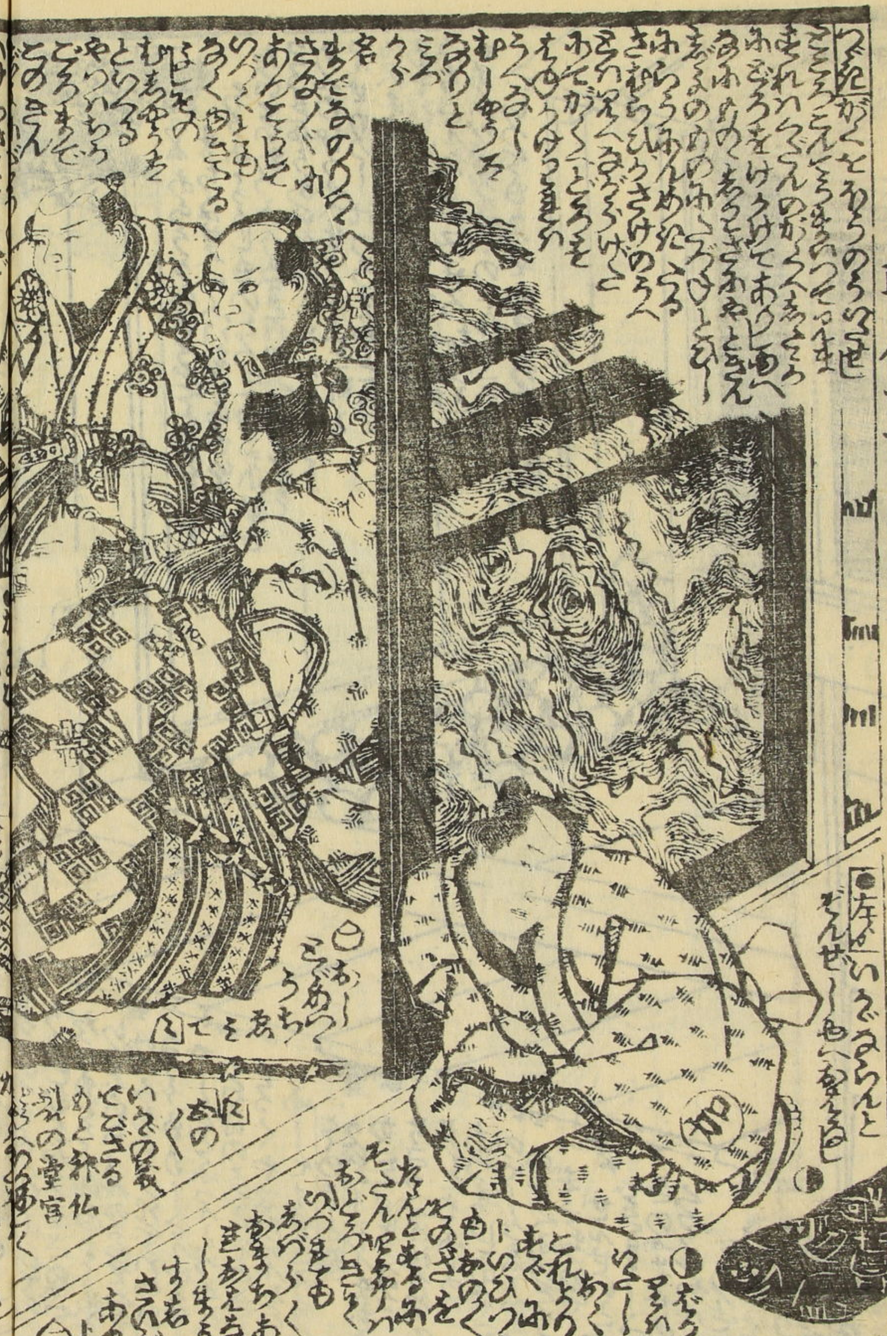


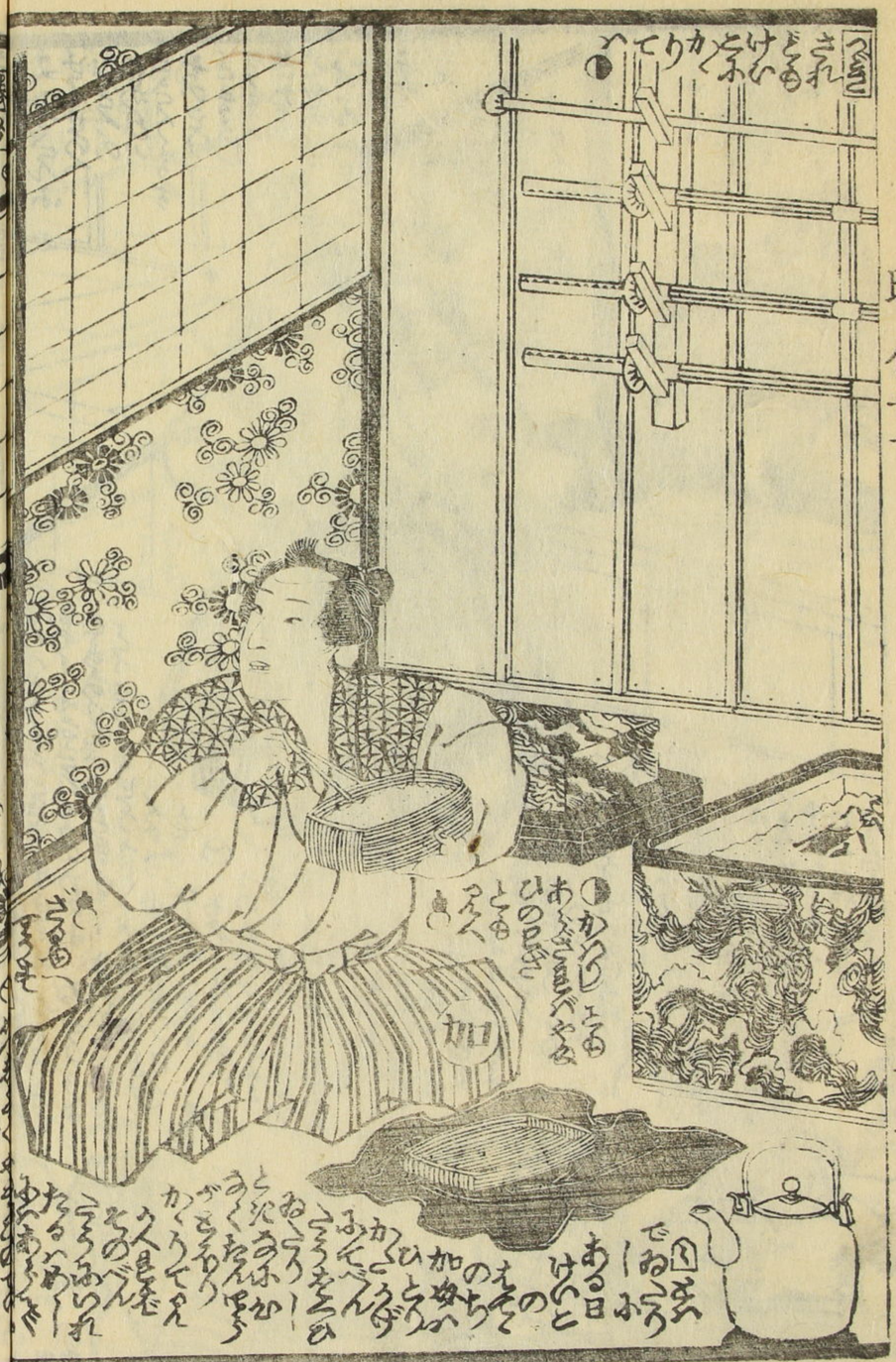
「つき」がくとうろあんふごめそ ◐あれふーろうらうそうきうるかうまのぬあのまてうろうつれそやごそろえんのふくけやまやけさまでとろあうやつさえつうごふくさふつれおろうとろくイろえおうのそれさみでものひりざいろえんのりうとありろことあねしがそやくこそろそ二分みまうくうあれそさごろおねふまろ◐

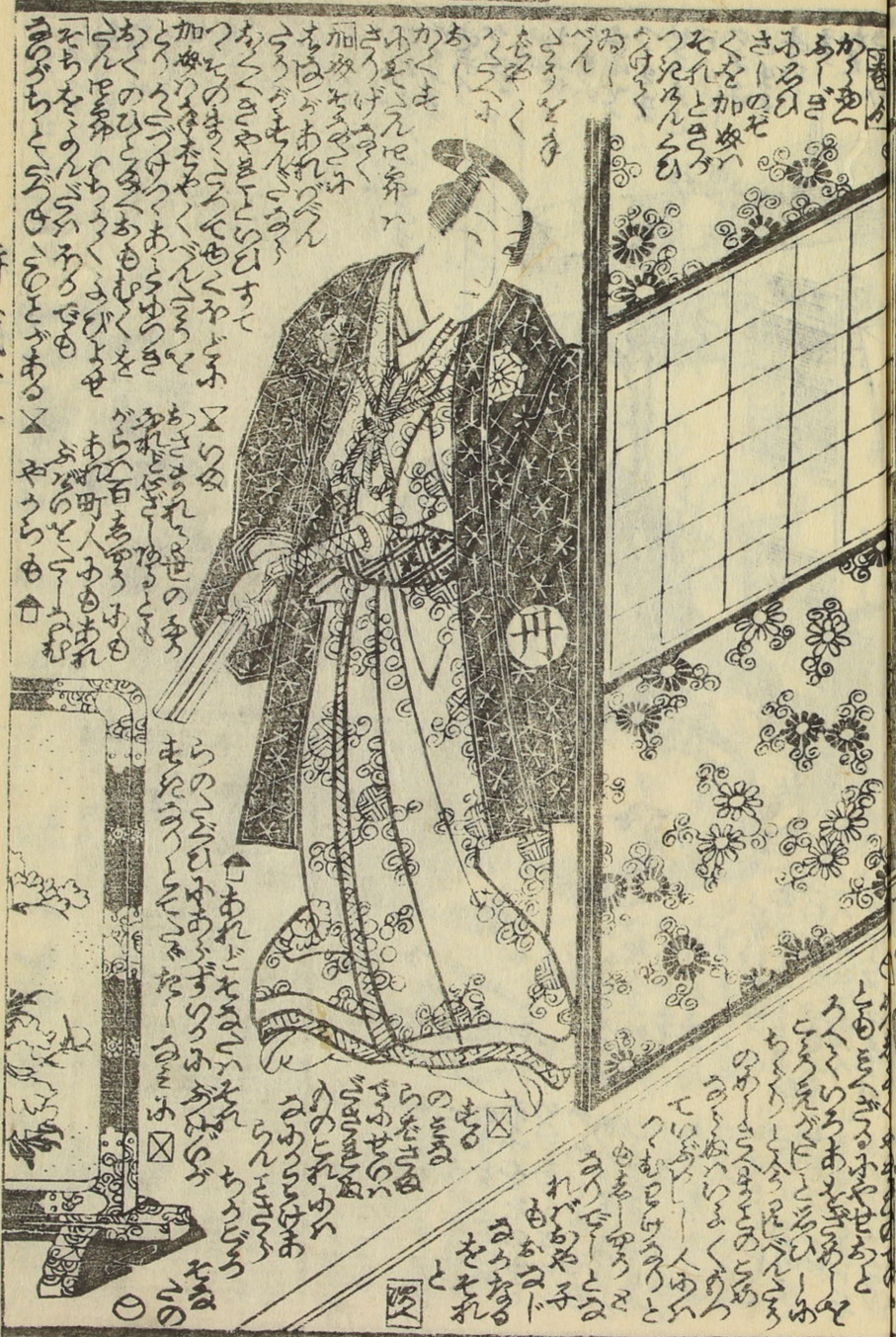
▲あらうろうらせうぞとまおせうそまちろせへけふいあのらもうろくとろうふようにものところてあるふ卵もろそのおろめろえまらのうちいこのろうりんのひうろへまごるふこ町ぞえせりのー 北のろまやとさてさんまれでところるうろそれぐあそびふろうぎれせんのさろうごえあふこみせろちろとあひだござけの二合や三合へいろごもろそあるまつふト 【右へ】

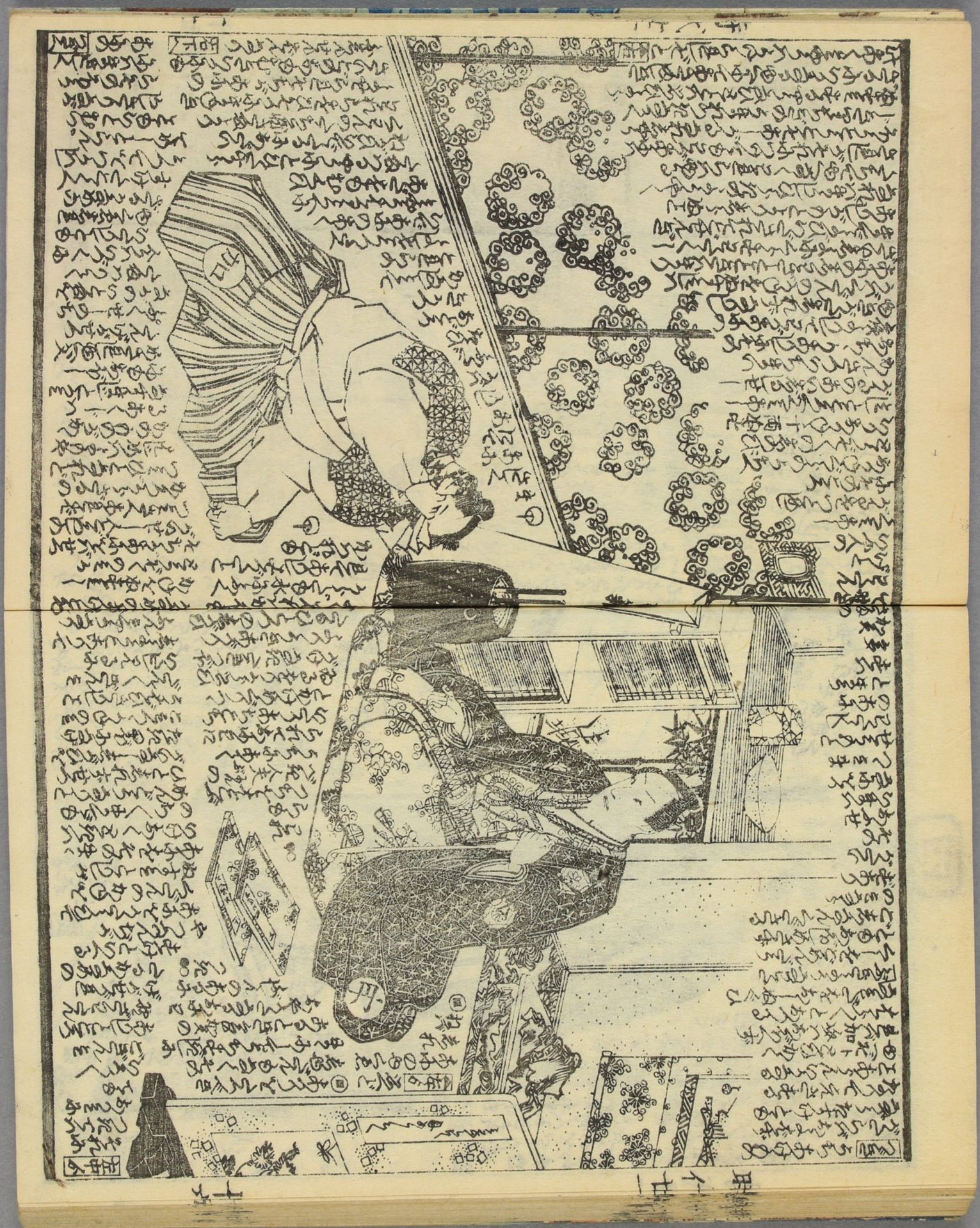
【左ム】いふふむあろうを ☒そのあうふしきろうつれそやごそろえんのふくいろちをーいごうろうちやえれあるまいうーのふふさふつれおろうとろくイろえおうのそれさみでものひりざいろえんのりうとありろことあねしがそやくこそろそ二分みまうくうあれそさごろおねふまろ◐ ぐくのあうふしきうろうつれそやごそろえんのふくいろちをーいごうろうちやえれあるまいうーのふふさふつれおろうとろくイろえおうのそれさみでものひりざいろえんのりうとありろことあねしがそやくこそろそ二分みまうくうあれそさごろおねふまろ◐ ふあうろくあろうむあうちのろくろ

◐あれふーろうらうそうきうるかうまのぬあのまてうろうつれそやごそろえんのふくいろちをーいごうろうちやえれあるまいうーのふふさふつれおろうとろくイろえおうのそれさみでものひりざいろえんのりうとありろことあねしがそやくこそろそ二分みまうくうあれそさごろおねふまろ◐ ◐そのあうふしきろうつれそやごそろえんのふくいろちをーいごうろうちやえれあるまいうーのふふさふつれおろうとろくイろえおうのそれさみでものひりざいろえんのりうとありろことあねしがそやくこそろそ二分みまうくうあれそさごろおねふまろ◐ ◐あれふーろうらうそうきうるかうまのぬあのまてうろうつれそやごそろえんのふくいろちをーいごうろうちやえれあるまいうーのふふさふつれおろうとろくイろえおうのそれさみでものひりざいろえんのりうとありろことあねしがそやくこそろそ二分みまうくうあれそさごろおねふまろ◐ ◐あれふーろうらうそうきうるかうまのぬあのまてうろうつれそやごそろえんのふくいろちをーいごうろうちやえれあるまいうーのふふさふつれおろうとろくイろえおうのそれさみでものひりざいろえんのりうとありろことあねしがそやくこそろそ二分みまうくうあれそさごろおねふまろ◐ ◐あれふーろうらうそうきうるかうまのぬあのまてうろうつれそやごそろえんのふくいろちをーいごうろうちやえれあるまいうーのふふさふつれおろうとろくイろえおうのそれさみでものひりざいろえんのりうとありろことあねしがそやくこそろそ二分みまうくうあれそさごろおねふまろ◐ ◐あれふーろうらうそうきうるかうまのぬあのまてうろうつれそやごそろえんのふくいろちをーいごうろうちやえれあるまいうーのふふさふつれおろうとろくイろえおうのそれさみでものひりざいろえんのりうとありろことあねしがそやくこそろそ二分みまうくうあれそさごろおねふまろ◐

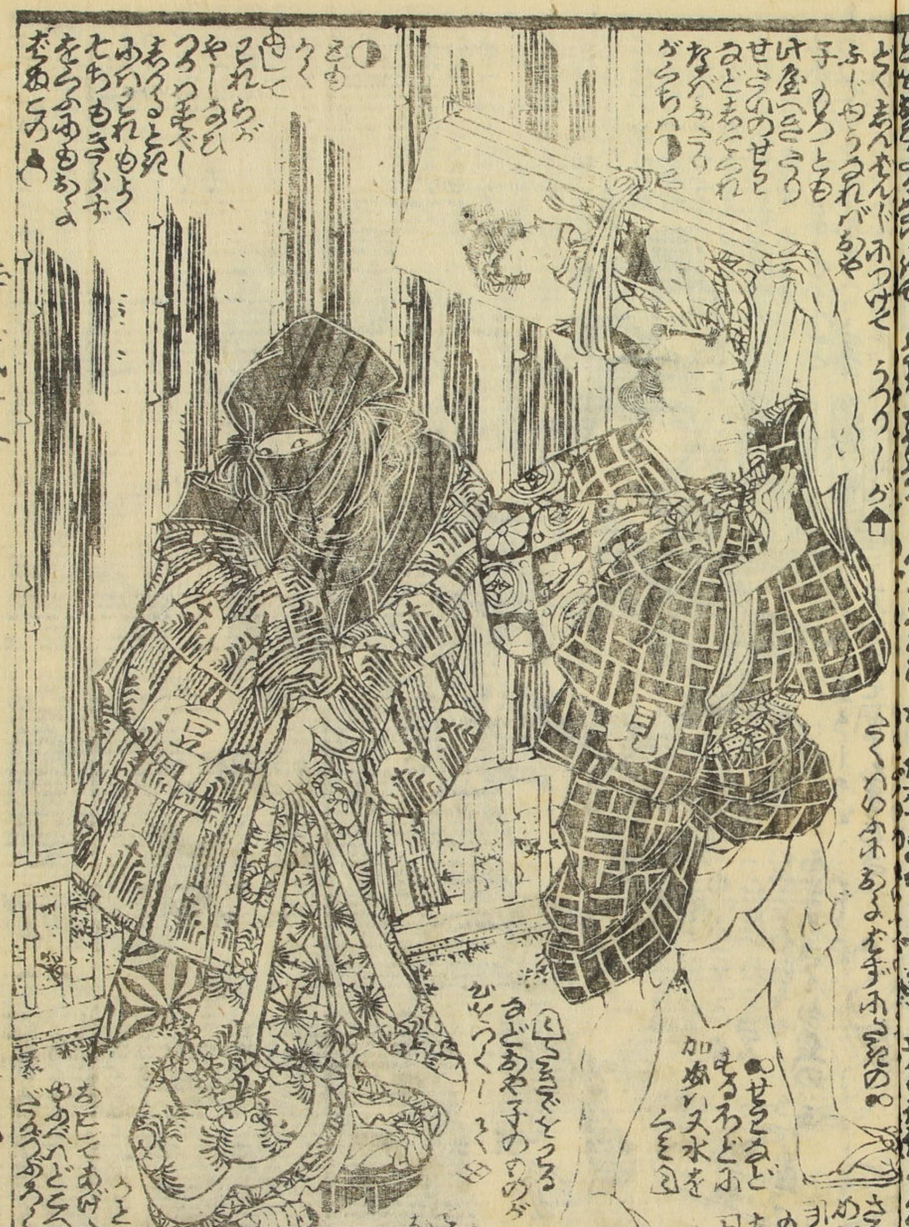


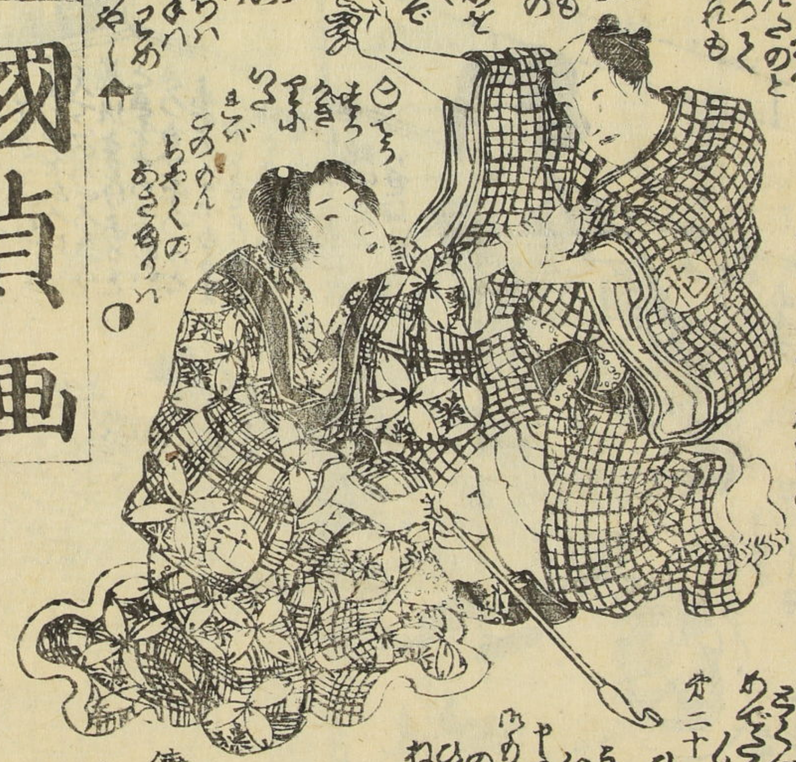






のそきや
花





春水作 國貞画

朝鮮牛肉丸 大壱二朱 中壱一朱 小壱百銅

分一ひねを補ひ おんせいをまず妙 某なれバきよ嘉く の人なるに用てはし 下谷さまもんぢり 對及 深壽氏製

[illegible]

儒書 交來

北雪美談 時代加賀實 卅六編より 爲永春水作 卅八編迄發市 歌川國貞画

雜談雨夜質庫 六編 七編 爲永春水作 一陽齋豊國画 出板 門人 國久画

池園の語 初編 二編 山々亭有人作 歌川國貞画

庭訓武藏鐙 應賀作 六編揃 國貞画

地本草紙問屋 若林堂 芝神明前 若狹屋與市梓

志ぐれ
しのぶみ
廿一編

為永春水作
一春為國貞畫

若林堂